



～ごみゼロ・循環型社会めざして～

3R活動推進フォーラム

年次報告書

令和元年度版
(2019年度版)



令和2年6月

3R活動推進フォーラム

はじめに

3 R活動推進フォーラムは、前身の全国ごみ減量推進会議・ごみゼロパートナーシップ会議の時から、永年、廃棄物の減量化・リサイクルの普及啓発活動に取り組み、また3 R活動推進フォーラムとなってからは、3 R推進全国大会や3 R促進ポスターコンクールなどを柱に、循環型社会の形成に向けて廃棄物の発生抑制（Reduce）、再使用（Reuse）、再生利用（Recycle）の3 Rを推進してきました。発足当初から見ると、事業活動も一段と充実することができ、これも会員の皆様の御協力の賜物と感謝申し上げる次第です。

さて、循環型社会の形成には、3 Rを推進する様々な主体の連携・協働が重要とされています。このため、3 R活動推進フォーラムでは近年、会員の増強とともに、会員相互の連携事業を強化して参りました。会員の増強については、平成 22 年度から自治体会員の会費の無料化を行い、自治体会員の加入を推進して参りました。環境省からも加入を呼びかけていただき、現在、73 自治体会員（47 都道府県・7 政令指定都市・10 特別区・9 一般市）と 68 民間団体会員、併せて 141 会員（令和 2 年 3 月末現在）となり、組織の強化を図ることができました。

また、自治体会員と民間会員による連携・協働事業は、令和元年度はセミナーや研修会など 12 回を開催し、より効果的・効率的な活動を展開することができました。

今後は、こうした成果を踏まえて、さらに広く効果的な 3 R推進活動を展開して参りますので、会員の皆様はじめ関係者の皆様の一層の御指導・御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

なお、本報告書は令和元年度の 3 R活動推進フォーラムの活動等についてとりまとめたものであり、会員の皆様をはじめ 3 R活動に係る関係各位の今後の業務の参考になれば幸いです。

令和 2 年 6 月

3 R活動推進フォーラム 会長 細田 衛士

目 次

	ページ
I 組織運営	1
1. 理事会・総会.....	1
2. 企画・運営委員会.....	2
3. 役員.....	3
4. 会員.....	4
5. 規約.....	5
6. 3R活動推進フォーラムについて.....	8
7. 令和元年度収支決算.....	12
II 令和元年度事業概要	15
1. 第14回3R推進全国大会.....	15
2. 3R促進ポスターコンクール.....	22
3. 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰.....	35
4. 連携・協働事業.....	36
5. 広報普及活動.....	47
6. 会員サービスの充実.....	50
7. ガイドラインに沿ったRマーク表示の啓発・普及.....	51

I 組織運営

1. 理事会・総会

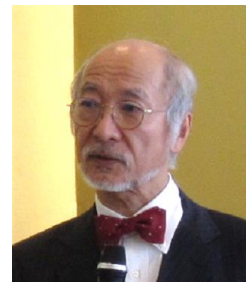
令和元年度理事会及び総会は、令和元年6月3日（月）に法曹会館2階高砂の間（東京都千代田区霞が関1-1-1）において合同で開催した。環境省をはじめ関係各省の出席の下開催され、平成30年度事業報告及び収支決算（案）、令和元年度事業計画及び収支予算（案）などの議案を承認した。



（1）挨拶

○細田衛士 3 R活動推進フォーラム会長

・3 R活動推進フォーラムも発足して14年目を迎えた。当フォーラムの会員は地方自治体と民間団体の会員で構成されている。現在自治体会員は72会員（47都道府県、7政令指定都市、9特別区、9一般市）、また民間団体会員も68会員、あわせて現在140会員となり、1年前に比べ全体で2会員増えた。環境省からも、毎年、都道府県等の環境部局長会議などで自治体の加入を呼び掛けていただき、改めて御礼申し上げる。引き続き政令指定都市等の入会を推進していく。



・当フォーラムの事業としては、毎年、3 R推進全国大会の開催や3 R促進ポスターコンクールの実施などを中心に3 R活動の普及啓発に努めている。昨年度の第13回大会は環境省・環境省中部地方環境事務所・富山県・3 R活動推進フォーラムが連携して、10月12日に富山県の富山国際会議場大手町フォーラムで開催した。また、今年度の第14回3 R推進全国大会は環境省・環境省関東地方環境事務所・新潟市・3 R活動推進フォーラムの主催により、10月29日新潟市朱鷺メッセマリナーホールで開催を予定している。今年度も皆様のご協力もいただき成功させて参りたい。

・当フォーラムでは会員団体との連携・協働事業に注力し、昨年度はセミナー等を計8回開催した。今年度も引き続き、海ごみ対策等プラスチックをテーマに連携・協働事業として推進して参りたい。加えて、今年度から、会員の皆様の御要望の多い講座事業を拡充していきたいと考えている。

・本日は、事業報告・収支決算及び事業計画・収支予算、役員改選等について慎重にご審議いただきたく、御協力のほどお願い申し上げます。

○富安健一郎 環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長 代理 前川陽一氏

・日ごろより3 Rの推進に御協力をいただき感謝する。

・昨年度は、5月に第五次環境基本計画が、6月に第四次循環型社会形成推進基本計画が閣議決定されるなど、3 Rの観点からも大きな変革があった。

・先月には海洋プラスチックごみに関して、プラスチック資源循環戦略や海洋プラスチックごみ対策アクションプランを策定するとともに、食品ロスに関しては、食品ロス削減の推進に関する法律が議員立法により成立した。そして今月は環境エネルギー大臣会合やG20サミットが開催されるなど、環境分野、資源循環分野において、国内国際両面での非常に大きな動きがある。これらの動きを踏まえながら、3 Rによる循環型社会づくりにむけて行政や企業、国民が連携・協力しながら取組をすすめることが大変重要だと感じている。



・循環計画においても、環境分野における人材育成、普及啓発等に取り組むことを位置づけるとともに3 Rによる循環型社会づくり、また、地方公共団体との取組の加速化や、幅広い関係者との連携の構築・高度化を図る3 R推進全国活動を開催し、3 R活動推進フォーラム等の民間の3 R関連団体との連携を図ると明記されている。我々としても、国内外の機運の盛り上がりを踏まえながら、しっかりと取組をすすめていきたい。引き続き、3 Rの普及啓発に対する皆様方の御

協力をお願いしたい。

(2) 来賓

環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室	前川陽一
経済産業省産業技術環境局資源循環経済課企画調整係長	佐竹正洋
国土交通省総合政策局公共事業企画調整課インフラ情報・環境企画室課長補佐	古堅宏和

(3) 出席

○役員

18名中出席11名（欠席者は全員委任状を提出）

○会員

140会員中出席34会員、39名 欠席者のうち86会員が委任状を提出

(4) 議事

第1号議案および第2号議案が承認された。なお、第1号議案の収支決算については、スチール缶リサイクル協会の中田良平監事から監査報告が行われた。

第1号議案 平成30年度事業報告（案）及び収支決算（案）

第2号議案 令和元年度事業計画（案）及び収支予算（案）

(5) その他

次期第14回 3 R 推進全国大会開催地の新潟市から挨拶が行われた。

○鈴木稔直新潟市環境部循環社会推進課長

・令和元年の年に、新潟市を会場にお選びいただき心より御礼申し上げます。10月29日（火）、先般G20農業大臣会合が開かれた朱鷺メッセで、3 R 推進全国大会を開催する。

・具体的にはこれから内容を詰めていくが、食品ロス、海洋ごみ、廃プラスチックを御議論、情報発信いただければと考えている。

・10月からJR東日本のデスティネーションキャンペーンが始まる。リーズナブルなチケットで飲食店を梯子していただけるイベントも組んでいるので、ぜひ御一泊の上、御来場いただきたい。

2. 企画・運営委員会

令和2年3月12日（木）に予定していた「令和元年度企画・運営委員会」は、新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から中止とした。

3. 役員

令和元年6月3日現在

会 長	細田 衛士	中部大学経営情報学部教授/慶應義塾大学名誉教授
副 会 長	崎田 裕子	(NPO)持続可能な社会をつくる元気ネット理事長
専任理事	藤波 博	(公財)廃棄物・3R研究財団調査部長
理 事	佐藤 直良	建設副産物リサイクル広報推進会議会長
理 事	山条 忠文	(一社)日本環境保全協会会長
理 事	永井 良一	(公社)全国産業資源循環連合会会長
理 事	長榮 周作	(一財)家電製品協会理事長
理 事	福山 一男	(公社)全国都市清掃会議会長
理 事	藤村コノエ	(NPO)環境文明21 代表理事
理 事	堀口 英樹	(一社)全国清涼飲料連合会会長
理 事	三浦 啓一	(一社)日本経済団体連合会環境安全委員会廃棄物・リサイクル部会長代行
理 事	三井 弘樹	(一社)全国清掃事業連合会会長
理 事	村上 秀徳	(一財)食品産業センター理事長
理 事	吉岡 敏明	(一社)廃棄物資源循環学会会長

(理事 五十音順)

監 事	大熊 洋二	(公社)全国都市清掃会議専務理事
監 事	中田 良平	スチール缶リサイクル協会専務理事

(監事 五十音順)

顧 問	加藤 三郎	(株)環境文明研究所代表取締役所長
顧 問	庄子 幹雄	マサチューセッツ工科大学客員教授

(顧問 五十音順)

4. 会員

3R活動推進フォーラム 会員一覧

R2.3.31現在

No.	団 体 名	No.	団 体 名	No.	団 体 名
自治体会員		48	さいたま市	21	(NPO)持続可能な社会をつくる元気ネット
1	北海道	49	相模原市	22	(一財)食品産業センター
2	青森県	50	新潟市	23	(公社)食品容器環境美化協会
3	岩手県	51	大阪市	24	スチール缶リサイクル協会
4	宮城県	52	神戸市	25	石油連盟
5	秋田県	53	北九州市	26	全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
6	山形県	54	熊本市	27	全国環境整備事業協同組合連合会
7	福島県	55	新宿区	28	全国牛乳容器環境協議会
8	茨城県	56	文京区	29	(公社)全国産業資源循環連合会
9	栃木県	57	墨田区	30	(一社)全国浄化槽団体連合会
10	群馬県	58	目黒区	31	全国生活学校連絡協議会
11	埼玉県	59	渋谷区	32	(一社)全国清掃事業連合会
12	千葉県	60	豊島区	33	(一社)全国清涼飲料連合会
13	東京都	61	荒川区	34	全国地域婦人団体連絡協議会
14	かながわ3R推進会議	62	練馬区	35	(公社)全国都市清掃会議
15	新潟県	63	足立区	36	(公財)全国老人クラブ連合会
16	富山県	64	葛飾区	37	全日本自治団体労働組合
17	石川県	65	岩見沢市	38	電気事業連合会
18	福井県	66	川口市	39	中間貯蔵・環境安全事業(株)
19	山梨県	67	船橋市	40	(一社)日本環境衛生施設工業会
20	長野県	68	昭島市	41	(一財)日本環境衛生センター
21	岐阜県	69	松本市	42	(公財)日本環境協会
22	静岡県	70	豊田市	43	(公財)日本環境整備教育センター
23	ごみゼロ社会推進あいち県民会議	71	東海市	44	(一社)日本環境保全協会
24	三重県	72	佐賀市	45	日本化粧品工業連合会
25	滋賀県	73	指宿市	46	JMIA 日本鉱業協会
26	京都府	計73会員		47	日本再生資源事業協同組合連合会
27	大阪府	民間団体会員		48	(公財)日本産業廃棄物処理振興センター
28	兵庫県	1	(公財)あしたの日本を創る協会	49	(一社)日本自動車工業会
29	奈良県	2	アルミ缶リサイクル協会	50	(一財)日本消費者協会
30	和歌山県	3	大阪湾広域臨海環境整備センター	51	(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
31	鳥取県	4	(一財)家電製品協会	52	日本生活協同組合連合会
32	島根県	5	紙製容器包装リサイクル推進協議会	53	(一社)日本即席食品工業協会
33	岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議	6	ガラスびん3R促進協議会	54	(一社)日本鉄鋼連盟
34	広島県	7	(一社)環境衛生施設維持管理業協会	55	(一社)日本パン工業会
35	山口県	8	(NPO)環境技術支援ネットワーク	56	(公社)日本PTA全国協議会
36	徳島県	9	(一財)環境事業協会	57	(一社)日本百貨店協会
37	香川県	10	(公社)環境生活文化機構	58	(NPO)日本ファイバーリサイクル推進協会
38	愛媛県	11	(NPO)環境文明21	59	(一社)日本有機資源協会
39	高知県	12	(一社)京都府産業廃棄物3R支援センター	60	日本労働組合総連合会
40	福岡県	13	(NPO)グリーンコンシューマー東京ネット	61	(一社)廃棄物資源循環学会
41	佐賀県	14	建設廃棄物協同組合	62	(公財)廃棄物・3R研究財団
42	長崎県	15	建設副産物リサイクル広報推進会議	63	(一社)パソコン3R推進協会
43	熊本県	16	国立研究開発法人国立環境研究所	64	びん再利用ネットワーク
44	大分県	17	ごみ減量ネットワーク	65	(一社)プラスチック循環利用協会
45	宮崎県	18	(NPO)最終処分場技術システム研究協会	66	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
46	鹿児島県	19	(公財)産業廃棄物処理事業振興財団	67	PETボトルリサイクル推進協議会
47	沖縄県	20	(一社)持続可能社会推進コンサルタント協会	68	(公財)水と緑の惑星保全機構
				計68会員	
				会員 合計141団体	

5. 3R活動推進フォーラム 規約

平成18年	5月31日	総会決定
平成19年	5月22日	一部改正
平成21年	5月12日	一部改正
平成22年	4月28日	一部改正
平成26年	5月23日	一部改正
平成29年	5月22日	一部改正

第1章 総 則

(名称)

第1条 本団体は、3R活動推進フォーラム（以下「フォーラム」という。）と称する。

(所在地)

第2条 フォーラムは、事務所を東京都内に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 フォーラムは、国民、事業者、行政、研究機関等が一体となって発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)の3Rによる循環型社会づくりを推進することを目的とする。

(事業)

第4条 フォーラムは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 3Rに関する研鑽・啓発
- (2) 3Rに関する先進的事業の実施・支援
- (3) 3Rに関する調査研究の実施・支援
- (4) 3Rに関する国内外の情報の収集、提供
- (5) 前4項に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

(会員)

第5条 フォーラムの会員は、フォーラムの目的に賛同して入会した団体をもって構成する。

(入会)

第6条 フォーラムの会員になろうとする団体は、フォーラムの趣旨に賛同し、入会申込書の提出をもって会員とする。

(負担金)

第7条 会員は、総会において別に定めるところにより、負担金を納入しなければならない。

2 自治体会員は負担金を免除する。

(退会)

第8条 会員がフォーラムを退会しようとするときは、その旨を届け出なければならない。

第4章 組織及び運営

(役員)

第9条 フォーラムに、次の役員を置く。

理事 30名以内

監事 2名

2 理事及び監事は総会において選任する。

3 理事のうち1名を会長、5名以内を副会長とし、それぞれ総会において選出する。

4 会長は、フォーラムを代表し、会務を総括する。

- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 6 理事のうち、1名を専任理事とし、総会において選出する。
- 7 専任理事は、事務局を総括する。
- 8 監事は、フォーラムの会計を監査する。
- 9 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

(顧問)

第10条 本会に顧問(若干名)をおくことができる。顧問は理事会の承認を得て会長が指名する。顧問の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

- 2 顧問は、会長の求めに応じて本会の運営に関して助言をする。

(総会及び理事会)

第11条 フォーラムの議決機関として、総会及び理事会を置く。

2 総会は会長が招集し、役員の任免、事業計画及び予算の決定、事業報告及び決算の承認、その他理事会が必要と認めた事項を審議し、議決する。

3 理事会は、会長が招集し、総会に付議すべき事項のほか、フォーラムの運営に関する重要な事項を議決する。

(企画・運営委員会)

第12条 フォーラムの組織、制度、事業計画について審議するため、企画・運営委員会を設置することができる。

- 2 企画・運営委員会の運営に関して必要な事項は、理事会が別に定める。

(事業計画及び予算)

第13条 フォーラムの事業計画及び予算は、会長が作成し、理事会及び総会の議決を経なければならない。ただし、次の総会までの期間に係る事務局運営費については、総会において事後承認することができる。

(事業報告及び決算)

第14条 フォーラムの事業報告及び決算は、毎会計年度終了後、3ヶ月以内に会長が事業報告書、収支決算書として作成し、監事の監査を経て理事会及び総会の承認を得なければならない。

(会計年度)

第15条 フォーラムの会計年度は1年とし、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事務局)

第16条 フォーラムの事務を処理するため、事務局を(公財)廃棄物・3R研究財団に置く。

- 2 事務局の組織及び運営に関して必要な事項は、理事会が別に定める。

第5章 雑 則

(委任)

第17条 この規約の施行について必要な事項については、理事会の決定するところによる。

附 則

この規約は、平成18年5月31日から施行する。

この規約の一部改正は、平成19年5月22日から施行する。

この規約の一部改正は、平成21年5月12日から施行する。

この規約の一部改正は、平成22年4月28日から施行する。

この規約の一部改正は、平成26年5月23日から施行する。

この規約の一部改正は、平成29年5月22日から施行する。

3 R活動推進フォーラム 負担金に関する規定

平成18年5月31日 総会決定
平成22年4月28日 一部改正

規約第7条に基づき、次のとおりとする。

- 第1 会員は年会費として10万円を納付しなければならない。
- 第2 自治体会員の負担金は免除する
- 第3 規約第6条に基づき入会するに際し、会費の納入が困難である等特別の事情がある場合には、第1の規定にかかわらず会費の納入を免除することができる。
- 第4 負担金は、5月末日までに納付するものとする。

3 R活動推進フォーラム 企画・運営委員会設置要領

平成21年 5月12日理事会決定

(目的)

- 第1条 3 R活動推進フォーラム（以下 「フォーラム」という。）規約第12条により、フォーラムに企画・運営委員会（以下 「委員会」という。）を設置し、理事会から付託された事項または、会長より諮問された事項について審議することを目的とする。

(構成)

- 第2条 委員会は、会員及び会員外の有識者をもって構成する。

(任期)

- 第3条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選により選任する。

(招 集)

- 第5条 委員会は、会長が招集する。

(委員会)

- 第6条 委員会は、フォーラムの組織、制度、事業計画について必要となる事項について審議する。

2 委員会は、審議に必要な調査を行うことができる。

3 委員会は、審議に必要と認める場合は、その目的に相応しい関係者を出席させることができる。

(審議事項の処理)

- 第7条 委員長は、委員会で審議決定した事項及び経過を理事会に報告し、または会長に答申しなければならない。

(附則)

この要領は平成21年5月12日から施行する。

6. 3 R活動推進フォーラムについて

(1) 「3 R活動推進フォーラム」の沿革 ～ごみ減量化から3 Rへ～

「3 R活動推進フォーラム」の前身は、平成4年に設立された「ごみ減量化推進国民会議」にあります。平成3(1991)年10月、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」が改正され、従来からのごみの適正処理に加え、排出抑制、分別、保管、再生（リサイクル）等による「ごみ減量化」の推進が大きな柱（法目的）として加えられ、同時に国民、事業者、国及び地方公共団体であって、ごみ減量化の積極的推進が求められることとなりました。そのため、「ごみ減量化」を強力に推進するため、幅広い国民運動を展開する機関として、平成4（1992）年9月、「ごみ減量化推進国民会議」が（社）全国都市清掃会議を事務局として設立されました。その後、同会議では、全国大会開催とは別に、再生紙利用促進、自動販売機の在り方、包装について具体的な検討作業を精力的に行っています。その結果、平成7(1995)年6月には、再生紙使用マーク（Rマーク）の設定、「マイ・バッグ・キャンペーン運動実施要領」の制定などが行われています。

平成12(2000)年6月、「循環型社会形成推進基本法」が公布されました。21世紀を迎え持続可能な社会を構築するためには、「ごみゼロ型社会」すなわち「循環型社会」への転換を推進することが強く求められることとなりました。そのため、平成14(2001)年7月、「ごみ減量化推進国民会議」から、更に一步踏み込んだ「ごみゼロ型社会づくり」（循環型社会づくり）の活動へと進むべく、「ごみゼロパートナーシップ会議」へと改称されました。

平成16(2003)年6月、米国シーアイランドで開催されたG8サミットにおいて、小泉元総理は、3 R（ごみの発生抑制（Reduce）、再使用（Reuse）、再生利用（Recycle））を通じた循環型社会の形成を目指す「3 Rイニシアティブ」を提唱し、G8各国の首脳の合意を得ました。翌平成17（2004）年4月、我が国は「3 Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」（ゴミゼロ国際化行動計画）を発表し、国内での循環型社会づくりを基礎として3 Rの国際的推進に主導的役割を果たすことを世界に宣言しました。こうした国際的な動きを踏まえ、我が国の循環型社会づくりの一層の加速化と地球規模での循環型社会の形成に寄与することが求められてきました。そのため、3 Rに関する社会的取組や先進的技術による取組をさらに進めるほか、会員相互の連携した活動の展開など、循環型社会への変革を強く意識した3 R活動を一層推進するため、「ごみゼロパートナーシップ会議」を拡充発展させ、平成18（2006）年1月、「3 R活動推進フォーラム」（会長：加藤三郎環境文明研究所代表）が発足しました。そして、平成19（2007）年5月、（社）全国都市清掃会議から（財）廃棄物研究財団（平成23年12月に（公財）廃棄物・3 R研究財団に移行）に事務局が移り、現在に至っています。

・歴代会長

初代	平成18年1月から平成18年5月	環境文明研究所代表	加藤三郎氏
第2代	平成18年5月から平成22年4月	東京大学総長	小宮山宏氏
第3代	平成22年4月から平成26年5月	東京大学大学院教授	武内和彦氏
第4代	平成26年5月から平成30年5月	慶應大学経済学部教授	細田衛士氏

・会員数

会員は、自治体会員73、民間会員68、合わせて141会員。（令和元年3月31日現在）

(2) 事業活動

3 R活動推進フォーラムは、①3 Rに関する研鑽・啓発、②3 Rに関する先進的事業の実施・支援、③3 Rに関する調査研究の実施・支援、④3 Rに関する国内外の情報の収集、提供等に関連する事業を実施しています。また、第四次循環型社会形成推進基本計画等を踏まえ、これらの計画が求めている循環型社会の形成に向けて、各主体が連携・協働した取組に貢献すべく、以下の事業等を実施することとしています。

1) 3 R推進全国大会及び関連事業

令和2年度は、和歌山県で第15回3 R推進全国大会を開催することとしており、併せて3 R促進ポスターコンクールの実施及び循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰推薦を実施する。

2) 連携・協働事業

フォーラムの会員団体などとのセミナー等の共同開催や3 R推進地方大会等への協力・後援等による連携を強化し、3 R活動の推進事業の推進、拡大に努める。なお、プラスチックスマートフォーラムとの協力によるマイクロプラスチック海洋ごみ対策セミナー等も予定している。

3) 実務講座・相談事業

自治体及び会員団体を対象に3 R・資源循環に関する研修・学習相談事業のニーズを把握し、研修セミナーを実施していく。

4) 広報普及事業

フォーラムの活動状況を年次報告書などにとりまとめ広報に努めるとともに、メールマガジン「3 R・廃棄物ニュース」や「事務局通信」の配信、ホームページ、展示会への出展等を通して、広く3 Rの推進を啓発・普及していく。

(3) おわりに ―フォーラムの今後―

小泉元総理は、「日本の3 R推進の経験―循環型社会の構築に向けて―」（環境省、2005年4月）において、「環境保護と経済発展の両立を実現する鍵は科学技術にあります。ゴミを減らし、使えるものはくり返し使うというモノを大切にする「もったいない」という心が科学技術と結びついた時に、大きな力を発揮すると思います。」と述べています。これからは、「もったいない」というマインド、すなわち3 Rを踏まえて、更に2 R（ごみの排出量を減らすこと（Reduce）、使えるものは使うこと（Reuse））という先達のノウハウを明確に把握しながら、更に推進することに加え、廃棄物・リサイクル関連技術の高度化にも努める必要があります。

このような大きな命題を前にした3 R活動推進フォーラムですが、限られた人的・予算資源の中で、一步一步、実績を着実に積み上げ関係各位からの信頼を勝ち得て、3 R活動分野の調整役（コーディネーター）の重責を果たすことが求められています。今後とも、3 R業務の推進に全力を尽くす所存ですので、国、地方公共団体、関係団体、NPOをはじめ関係各位の御指導、御協力をお願いするものです。

<参考> 3 R活動推進フォーラムの沿革「ごみ減量化から3 Rへ、そして2 Rへ」

平成 4（1992）年 9 月「ごみ減量化推進国民会議」発足。

平成 14（2002）年 7 月「ごみゼロパートナーシップ会議」に改組。

平成 18（2006）年 1 月「3 R活動推進フォーラム」に改組。

平成 19（2007）年 5 月「3 R活動推進フォーラム」事務局が（財）廃棄物研究財団に移る。

3 R関係年表

平成元年 (1989)	6月	東京都、ごみ減量キャンペーン「TOKYO SLIM89」
	8月	財団法人廃棄物研究財団設立
	12月	鈴木都知事、都議会でゴミの非常事態を宣言
2年 (1990)	3月	廃棄物学会設立
	10月	株価暴落し、バブル景気の崩壊
	12月	「ダイオキシン類発生防止等ガイドライン」(旧ガイドライン)
3年 (1991)	6月	「再生資源利用促進法」公布
	10月	「廃棄物処理法」改正され、法の目的にごみの減量化・発生抑制、再生(リサイクル)の推進が導入された
4年 (1992)	6月	地球サミット、リオ・デジャネイロで開催
	9月	<u>ごみ減量化推進国民会議の設立総会</u> を岡山市で開催
	9月	<u>第1回ごみ減量化推進全国大会</u> (岡山県、岡山市)
5年 (1993)	11月	「環境基本法」公布
		<u>第2回ごみ減量化推進全国大会</u> (東京都)
6年 (1994)	5月	「再生紙利用促進のための具体的行動目標」採択
	9月	<u>第3回ごみ減量化推進全国大会</u> (大阪府、大阪市)
	12月	「環境基本計画」発表、循環、共生、参加、国際的取組
7年 (1995)	6月	「容器包装リサイクル法」公布
	6月	ごみ減量化推進国民会議、「包装・容器の減量化に関する指針」採択、「再生紙使用マーク」(Rマーク)設定
		「マイ・バッグ・キャンペーン運動実施要領」制定
	9月	<u>第4回ごみ減量化推進全国大会</u> (千葉県、千葉市)
8年 (1996)	10月	ごみ減量化推進国民会議、「PETボトルのあり方についての検討委員会報告書」発表
	10月	<u>第5回ごみ減量化推進全国大会</u> (福岡県、福岡市、北九州市)
9年 (1997)	1月	「ごみ処理におけるダイオキシン類発生防止ガイドライン」(新ガイドライン)
	6月	ごみ減量化推進国民会議、「再生紙利用促進のガイドライン」採択
	10月	<u>第6回ごみ減量化推進全国大会</u> (宮城県、仙台市)
10年 (1998)	6月	「家電リサイクル法」公布
	6月	ごみ減量化推進国民会議、再生紙利用促進のガイドライン(改正)」採択
	10月	<u>第7回ごみ減量化推進全国大会</u> (兵庫県、神戸市)
		「地球温暖化対策法」公布
11年 (1999)	7月	「ダイオキシン類対策特別措置法」公布
	10月	<u>第8回ごみ減量化推進全国大会</u> (埼玉県、浦和市)
12年 (2000)	5月	「建設リサイクル法」、「グリーン購入法」公布
	6月	「循環型社会形成推進法」、「食品リサイクル法」、「資源有効利用促進法」公布
	10月	<u>第9回ごみ減量化推進全国大会</u> (広島県、広島市)
13年 (2001)	1月	中央省庁再編により環境省が廃棄物・リサイクル行政を所管
	10月	<u>第10回ごみ減量化推進全国大会</u> (北海道、札幌市)
14年 (2002)	7月	「自動車リサイクル法」公布
	7月	<u>第10回総会、「ごみゼロパートナーシップ会議」</u> に改称
	11月	<u>第1回ごみゼロ推進全国大会</u> (徳島県、徳島市)
15年 (2003)	3月	「循環型社会形成推進基本計画」公表
	10月	<u>第2回ごみゼロ推進全国大会</u> (富山県、富山市)
16年 (2004)	6月	G8シーアイランドサミット(米国)、小泉首相が3Rイニシアティブを提唱
	10月	<u>第3回ごみゼロ推進全国大会</u> (静岡県、静岡市)
17年 (2005)	2月	「京都議定書」発効
	4月	「3Rイニシアティブ閣僚会合」を東京で開催
		「3Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」(ゴミゼロ国際化行動計画)発表
	10月	<u>第4回ごみゼロ推進全国大会</u> (長崎県、佐世保市)

18年 (2006)	1月	「ごみゼロパートナーシップ会議」を拡充発展させ「3R活動推進フォーラム」発足 会長に加藤三郎環境文明研究所代表が就任
	3月	「3Rイニシアティブ高級事務レベル会合」を東京で開催
	5月	会長に小宮山宏東京大学総長が就任
	10月	第1回3R推進全国大会（愛知県、名古屋市）
19年 (2007)	5月	事務局が(社)全国都市清掃会議（現(公社)全国都市清掃会議）から(財)廃棄物研究財団（現(公財)廃棄物・3R研究財団）に移る 「ごみ不法投棄監視ウィーク」がスタート
	6月	「21世紀環境立国戦略」閣議決定、「3Rを通じた持続可能な資源循環」を推進 G8ハイリゲンダムサミット（独）、地球温暖化問題が最重要課題の一つとなる 安倍首相「美しい星50(クールアース50)」を提案
	10月	第2回3R推進全国大会(福岡県、北九州市)
20年 (2008)	3月	「循環型社会形成推進基本計画」改訂
	5月	G8環境大臣会合で「新・ゴミゼロ国際化行動計画」を発表
	7月	G8北海道洞爺湖サミット
	10月	第3回3R推進全国大会（山形県、山形市）
21年 (2009)	10月	第4回3R推進全国大会（千葉県）
22年 (2010)	4月	会長に武内和彦東京大学大学院教授が就任
	11月	第5回3R推進全国大会(佐賀県、佐賀市)
23年 (2011)	8月	東日本大震災により生じた廃棄物の処理の特例に関する法律公布
	8月	「平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法」公布
	10月	第6回3R推進全国大会（京都市）
	12月	(公財) 廃棄物・3R研究財団設立
24年 (2012)	8月	特定産業廃棄物特別措置法一部改正法律公布
	8月	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律公布
	10月	第7回3R推進全国大会（東京都内）
25年 (2013)	4月	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律施行
	5月	第三次循環型社会形成推進基本計画閣議決定
	10月	第8回3R推進全国大会（栃木県）
26年 (2014)	5月	会長に細田衛士慶應大学経済学部教授が就任
	10月	第9回3R推進全国大会（相模原市）
27年 (2015)	11月	第10回3R推進全国大会（福井県）
28年 (2016)	5月	G7富山環境大臣会合
	5月	G7伊勢志摩サミット
	10月	全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会設立
	10月	第11回3R推進全国大会（徳島県）
29年 (2017)	10月	第12回3R推進全国大会（沖縄県）
30年 (2018)	10月	第13回3R推進全国大会（富山県）
	4月	「第5次環境基本計画」閣議決定
	6月	「第4次循環型社会形成推進基本計画」閣議決定 「プラスチック資源循環戦略」閣議決定
令和元年 (2019)	10月	第14回3R推進全国大会（新潟市）
	5月	「食品ロス削減推進法」公布 「G20 軽井沢環境大臣会合」 「G20 大阪サミット」
令和2年 (2020)	10月	第15回3R推進全国大会（和歌山県を予定）
	6月	新型コロナウイルス感染が世界的に蔓延し、理事会・総会を書面決議で行う。
	7月	レジ袋の有料化

7. 令和元年度収支決算

令和元年度 収支決算書(案)

自 平成31年4月1日
至 令和2年3月31日

1.収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異	備考
1 会 費 収 入	4,200,000	4,300,000	100,000	
(1) 会費収入	4,200,000	4,300,000	100,000	会員43件
2 事 業 収 入	750,000	664,750	△ 85,250	
(1) 3R推進企画運営業務収入	500,000	0	△ 500,000	ホスコン応募作品受付管理費等
(2) セミナー等参加費収入	250,000	664,750	414,750	講座開催参加費
3 利 息 収 入	20	23	3	
(1) 普通預金利息収入	20	23	3	
当 期 収 入 合 計	4,950,020	4,964,773	14,753	
前 期 繰 越 収 支 差 額	△ 340,764	△ 340,764	0	
収 入 合 計	4,609,256	4,624,009	14,753	

2.支出の部

科 目	予算額	決算額	差異	備考
1 普及啓発費	2,809,000	3,641,430	832,430	
(1) 企画等運営費	518,000	502,681	△ 15,319	
1) 旅費	105,000	65,160	△ 39,840	
2) 通信運搬費	5,000	1,782	△ 3,218	
3) 会議費	255,000	296,394	41,394	総会懇親会費用等
4) 賃借料	150,000	137,095	△ 12,905	総会会場費等
5) 調査旅費	3,000	2,250	△ 750	
(2) 3 R 推進大会費	485,000	802,053	317,053	全国大会開催関係経費
1) 印刷製本費	80,000	189,012	109,012	
2) 通信運搬費	20,000	35,216	15,216	
3) 会議費	30,000	55,073	25,073	
4) 賃借料	50,000	91,662	41,662	
5) 調査旅費	250,000	285,890	35,890	
6) 広告宣伝費	30,000	49,500	19,500	
7) 雑費	25,000	95,700	70,700	
(3) セミナー等開催費	515,000	1,183,718	668,718	セミナー、講座開催経費
1) 謝金	100,000	340,000	240,000	
2) 旅費	30,000	247,430	217,430	
3) 通信運搬費	10,000	27,240	17,240	
4) 会議費	20,000	23,951	3,951	
5) 賃借料	280,000	364,359	84,359	
6) 調査旅費	70,000	178,208	108,208	
7) 雑費	5,000	2,530	△ 2,470	
(4) 広報活動費	1,291,000	1,152,978	△ 138,022	美化キャンペーン、エコライフフェア等
1) 謝金	80,000	100,000	20,000	
2) 印刷製本費	250,000	72,360	△ 177,640	
3) 通信運搬費	460,000	537,054	77,054	HPサポート費
4) 消耗品費	10,000	1,080	△ 8,920	
5) 賃借料	80,000	40,500	△ 39,500	エコライフフェア出展料等
6) 調査旅費	200,000	171,540	△ 28,460	
7) 広告宣伝費	50,000	38,500	△ 11,500	
8) 人材派遣費	56,000	55,944	△ 56	エコライフ手伝派遣人件費
9) 会費	100,000	125,000	25,000	こどもエコクラブ等会費
10) 雑費	5,000	11,000	6,000	
2 管理費	1,800,256	1,784,254	△ 16,002	
1) 旅費	0	0	0	
2) 印刷製本費	350,246	323,220	△ 27,026	
3) 通信運搬費	150,000	165,729	15,729	
4) 消耗品費	5,000	42,670	37,670	
5) 光熱水材費	60,000	72,871	12,871	
6) 賃借料	1,200,000	1,143,813	△ 56,187	
7) 租税公課	10	3	△ 7	
8) 雑費	35,000	35,948	948	
当期支出合計	4,609,256	5,425,684	816,428	
当期収支差額	340,764	△ 460,911	△ 801,675	
次期繰越収支差額	0	△ 801,675	△ 801,675	

[注]上記の収入・支出には、フォーラムの活動に要した経費のうち公益財団法人廃棄物・3R研究財団が負担したもの(人件費等)は含まれていない。

令和元年度 貸借対照表(案)

(令和2年 3月31日現在)

(単位:円)

資 産 の 部		負債及び正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【負 債】	
現 金	268,810	未 払 金	1,728,718
普 通 預 金	658,233	【正 味 財 産】	
未 収 金	0	正 味 財 産	△ 801,675
		(うち当期正味財産増加額)	(△460,911)
資 産 合 計	927,043	負債及び正味財産合計	927,043

Ⅱ 令和元年度事業概要

3 R活動推進フォーラムでは、令和元年度事業として環境省や新潟市等と連携して第14回3 R推進全国大会を新潟市で開催した。また、各種セミナー・シンポジウムを全国各地で12回開催したのをはじめ、環境省等と3 R促進ポスターコンクールなどを実施したほか、循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰の推薦、展示会への出展、環境美化活動への参加、メールマガジンの配信等の広報・普及事業を実施した。

1. 第14回3 R推進全国大会の開催

3 R推進全国大会は、国民・事業者・行政が一堂に会し、循環型社会形成に関するそれぞれの知識や経験等の情報を交換するとともに、参加者一人一人が自らのライフスタイルを見直す機会を提供することを通じ、ごみの減量・再資源化などの3 R推進に関する理解を深め、ごみゼロ社会の実現や循環型社会の形成に向けた取組を推進することを目的に毎年開催している。令和元年度の第14回大会は環境省、環境省関東地方環境事務所、新潟市と3 R活動推進フォーラムの主催により10月29日（火）に新潟市内の朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 国際会議室（マリンホール）で開催した。



（1）概要

- 開催日時：令和元年10月29日（火） 13:00～16:30
- 会場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 国際会議室（新潟市中央区万代島6-1）
- 主催：環境省、環境省関東地方環境事務所、新潟市、3 R活動推進フォーラム
- 後援：新潟県
- 参加者：400名
- プログラム

①式典

- ・主催者挨拶 石原宏高環境副大臣、中原八一新潟市長、崎田裕子3 R活動推進フォーラム副会長
- ・来賓挨拶 佐藤豊美新潟市議会議員
- ・表彰式 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰
3 R促進ポスターコンクール表彰

②記念シンポジウム ^{niiigata} 新型イニシアティブ～知識と意識で3 Rを推進～

- ・基調講演「SDGsと3 R促進、地域循環共生圏構想の推進」
環境省中央環境審議会循環型社会部会委員・3 R活動推進フォーラム副会長 崎田裕子氏
- ・事例発表 新潟発「ライスバレーにいがたプロジェクト」
株式会社バイオマスレジ南魚沼 専務取締役 経営企画室 室長 中谷内美昭氏
- ・パネルディスカッション ～食品ロス削減へ！これからのイニシアティブ～
【コーディネーター】

NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長 崎田裕子氏

【パネリスト】

新潟薬科大学応用生命科学部 特任講師 石丸亜矢子氏

イオンリテール株式会社北陸信越カンパニー広報・環境社会貢献グループマネージャー

山城篤司氏

新潟気軽に省エネくらぶ 代表

波多野千代氏

環境省環境再生・資源循環局総務課 循環型社会推進室長

富安健一郎氏

③次回開催地挨拶 和歌山県環境生活部 環境政策局長

古川勉氏

④ 3 R 推進展示コーナー

⑤ 名刺交換会

⑥ 関連イベント

- ・施設見学会（新潟市亀田清掃センター）
- ・にいがた市民環境フェア

（２）式典

① 主催者挨拶

【石原宏高環境副大臣】

・人類の生存の基盤である恵み豊かな環境を将来の世代に引き継いでいくためには、3 R、すなわち廃棄物のリデュース・リユース・リサイクルを徹底した循環型社会を国民一体となって構築することが必要。今回で 14 回目となる本大会は、循環型社会の構築に向けて幅広い関係者が一同に会し、それぞれの取組についての理解を深め、具体的な取組を全国に発信する重要な機会である。

・本大会では、地域において様々な形で循環型社会の形成に貢献されてきた方々の表彰を行う。循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰を受賞する皆様に、心からお祝いを申し上げるとともに、今後ともより一層の御活躍を期待申し上げます。また、ポスターコンクールにおいて約 5,500 点の応募作品の中から見事最優秀賞を受賞の皆様にもお祝いを申し上げます。コンクールのテーマである 3 R を忘れずに、毎日の生活の中で 3 R の取組を続けていただきたい。

・環境省では、昨年 6 月に閣議決定された第四次循環型社会形成推進基本計画の下、3 R の促進に向けた取組を進めている。毎年 10 月は 3 R 推進月間として、国民の皆様に関りある資源の大切さを考え、3 R の意義を理解していただくことに加え、一人でも多くの方にそれを行動し実践する機会としていただけるようなイベント等を展開している。例えば、10 月から 12 月中旬まで実施している「選ぼう！ 3 R キャンペーン 2019」では、リデュース等につながる対象商品を購入することで 3 R や資源の大切さを知って頂く新しい試みとなっている。スーパーやドラッグストアなど、全国約 6,700 店舗で実施をしているので是非御参加をいただきたい。

・本大会が、3 R に関する一層の取組促進の契機となるとともに、全国に対する効果的な情報発信の機会となることを心から祈念して、私の御挨拶とさせていただきます。



【中原八一新潟市長】

・昨今、世界各地で発生している自然災害の状況を見ると本大会の趣旨である 3 R を推進し、持続可能な循環型社会を実現することが喫緊かつ重要な課題である。環境に対する関心の高まりの中で、プラスチックによる海洋汚染、また、食品ロスも国内外で解決が迫られている。そうした中、今年 5 月に本日の会場でもある朱鷺メッセにおいて G20 新潟農業大臣会合が開催され、閣僚宣言では食品ロスに関する内容も盛り込まれた。同じ年にこの 3 R 推進全国大会を新潟市で開催できることは大変意義深く、誇りと喜びを感じている。本日の大会が皆様にとって今後の取組のきっかけやヒントになり、本大会のサブテーマの通り、新潟から 3 R の知識と意識が広がっていくことを心から願っている。本市としても、今日を新たなスタートとして 3 R を推進し、循環型社会の形成を加速していく。

・新潟市は今年開港 150 周年を迎えた。「みなとまち新潟」ブランドの創造と魅力向上を図ろうと、これまで各種記念事業を展開しており、10 月からは JR 東日本の新潟県庄内エリアデスティネーションキャンペーンが始まっている。テーマのガストロノミー（美食）に合わせた独自企画、古町花街美食巡りは、特典付きの飲食チケットを購入すると色々なお店で新潟ならではの料理や地酒を堪能することができる。ぜひこの機会に新潟をお楽しみいただければと思っている。



・3 R推進全国大会の開催にあたり御尽力をいただいた石原環境副大臣をはじめ環境省の皆様、また3 R活動推進フォーラムの皆様、そして会場にお集まりの皆様の今後ますますの御健勝と御発展をお祈りし、また御協力いただきました関係者の皆様に感謝を申し上げ、一言開会の御挨拶とする。

【崎田裕子 3 R活動推進フォーラム副会長】

・循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰に受賞される皆様と3 R促進ポスターコンクールで最優秀賞を受賞された皆様にお祝い申し上げます。この受賞を機会に、益々活動を広げていただければ大変ありがたいと思っている。

・3 R活動推進フォーラムは、平成18年に設立された。きっかけは、平成16年にアメリカのシーアイランドで開催されたG8サミットにおいて、当時の小泉首相が3 Rイニシアティブを提唱し、合意された。翌平成17年に、我が国は3 Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進することを目指し、日本の行動計画として、ごみゼロ国際化行動計画を発表した。こうした動きを踏まえて、我が国の3 Rに関する社会的な取組を循環型社会への変革へ向けて進めるために、それまであったごみゼロパートナーシップ会議を拡充させて、3 R活動推進フォーラムが平成18年1月にスタートした。フォーラムは現在、自治体が72会員、民間団体が68会員、あわせて140団体で構成され、3 R推進全国大会や3 R促進ポスターコンクール、その他自治体や民間団体と連携した3 Rの様々なセミナーなど、広報活動を積極的に展開している。今年の6月にG20が大阪で開催され、海洋ごみ問題を含めてプラスチックの問題が取り上げられ、各自治体においてもプラスチック対策、海洋ごみ対策にしっかり取り組んでいく大きな流れができた。3 R活動推進フォーラムも、引き続き環境省、地方自治体、民間団体、企業など多くの皆様と連携しながら循環型社会の形成に向けて一層活動を広げていく。

・今日これからの時間、皆様に有意義に過ごしていただき、本日の3 R推進全国大会が、様々な大きな一歩に繋がることを心から祈念している。



②来賓挨拶

【佐藤豊美新潟市議会議員】

・本日3 R推進全国大会が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げますとともに、全国から多くの皆様方をお迎えできたことは誠に光栄であり、心より感謝申し上げます。また、後ほど栄えある表彰をお受けになられる方々におかれましては、循環型社会の形成のために多大な御貢献をいただいております、その御功績に対して深く敬意を表するとともに、心よりお祝いを申し上げます。

・今日私達は豊かな生活を送る一方で、地球温暖化や将来的なエネルギー資源の枯渇など地球規模での様々な環境問題に直面している。この美しい地球を守り、限りある資源を次の世代にしっかりと引き継いでいく為にも、これまでの大量生産、大量消費、大量廃棄のシステムを見直し、循環型社会の構築に向けた取組を社会全体で推進していくことが必要。本日行われる記念シンポジウムや多彩な催しを通じて、3 Rの趣旨について理解を深めていただくとともに社会全体の循環型社会への関心が高まり、持続可能な循環型社会の実現に向けた取組が今後さらに加速されることを期待している。

・この3 R推進全国大会の開催にあたり御尽力いただいた関係者の皆様方に深く敬意を表するとともに、本大会の成功と本日御参加いただいた皆様方の益々の御健勝と御活躍を祈念する。



③表彰式

◇令和元年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰

循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰は、先駆的又は独創的な取組により、循環型社会の形成について顕著な成果を上げている企業、団体又は個人に対して、環境省が毎年表彰しているもので、令和元年度は、企業6件、団体6件が表彰された（写真19ページ）。

令和元年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰

区分	都道府県	企業名・団体名	取組内容
団体	青森県	青森県生活協同組合連合会 生活協同組合コープあおもり 青森県民生活協同組合	1990年から県内でいち早く牛乳パックの回収を開始。その後もアルミ缶、食用廃油、古紙の回収を県内12店舗及び周辺地域にて開始するとともに、マイバッグの推進、クリーンBOX設置費用補助による分別収集の促進、植樹活動等による環境保全に関する啓発活動にも取り組んでいる。
	新潟県	新潟気軽に省エネくらぶ	平成13年から、自治会や地域コミュニティ協議会との連携や自主製作パンフレットで、地球温暖化防止に向け3Rの必要性と普及に貢献。家庭の生ごみの堆肥化活動等、家庭で気軽に取り組める3Rの取組を紹介し啓発活動を継続している。
	富山県	富山県立砺波工業高等学校生徒会	20年に渡り、地域の行事等で壊れたおもちゃの修理・リユース活動「おもちゃの病院」を実施。機械工学部、電気工学部及び電子工学部の生徒が中心となり、授業で身につけた知識と長年の活動のノウハウで、地域の子供たちの環境教育やごみの発生抑制に大きく貢献している。
	鳥取県	社会福祉法人養和会 エボック翼	鳥取県で唯一福祉サービス事業所でリユース食器レンタルを行っている。リユース食器を利用した各種イベント会場にも積極的に出向き、情報発信をし利用促進に貢献している。「環境と福祉のコラボレーション」を活動方針としており誰一人取り残さない社会の実現と環境負荷の低減に貢献している。
	岡山県	和気町環境衛生指導員協議会	地域の環境美化に努めるとともに、循環型社会の形成に向けての普及啓発を行ってきた。「和気町レジ袋有料化」の取組によるレジ袋の削減や資源化物の分別収集を実施。分別収集された生ごみはたい肥化処理をし、住民に配布するなど、和気町の主要産業である農業にも貢献している。
	徳島県	緑のリサイクル・ソーシャル・エコ・プロジェクト・チーム	公園等で発生する「刈草」を焼却処分すると多量にCO2を排出することに着目。「刈草」を100%リサイクルした資源循環型肥料を開発し、県内外での出前授業等を通じて配布し、普及啓発活動に取り組んでいる。
企業	北海道	金滴酒造株式会社	平成25年より、酒粕を利用した新商品開発による産業廃棄物の完全削減を実施。今まで処分していた酒粕を、肉牛農家における試験利用を経て、家畜の飼料化を実現。また、地元の食品加工会社にも協力を仰ぎ、各社に無償で酒粕を提供し、商品化に向けた試験製造を依頼し、酒粕の新規利用先の開発に成功した。
	福井県	坂井森林組合	長年に渡り、間伐材から木質チップを製造し、防草材に有効活用するリサイクルを行うとともに、近年は化学メーカーと協働し、間伐材を原料とした製品を製造する先駆的な取組み等を行い、リサイクルの推進に貢献している。
	岡山県	平林金属株式会社	独自技術を用いたリサイクルプラントを整備し、ベースメタルや希少金属類、プラスチック等の高度な回収・リサイクルを実施。また、家庭で不用となった小型家電や金属類等を回収する有人型資源集積システム「えこ便」を全国で初めて構築し、県民にリサイクル活動を普及させ、廃棄物の適正処理及び循環型社会の形成に大きく貢献している。
	岡山県	水島エコワークス株式会社	倉敷市や水島コンビナートの廃棄物を県内唯一のサーモセレクト方式のガス化熔融処理システムにより100%再資源化し、資源循環型社会の実現に貢献。平成30年7月豪雨で岡山県において発生した災害廃棄物の処理にも貢献。また、環境教育の一環として、長年にわたり施設見学を実施している。
	福岡県	株式会社ジェヌインアールアンドディー	醤油粕から天然ヒト型セラミドを高純度で安定的に生成する技術開発に成功し、機能性化粧品やサプリメントなどの原料として実用化した。また、その残渣も、飼料としてリサイクル可能で、循環型社会の形成に優れた事業モデルを実施している。
	福岡県	株式会社博水	かまぼこの原料である「えそ」の頭や内臓など、これまで未利用で廃棄されていた部位に着目。「えそ」の魚屑を利用した天然調味料「魚醤」を開発製造し、食品廃棄物リサイクルに貢献している。

◇令和元年度3R促進ポスターコンクール最優秀賞表彰

3R促進ポスターコンクールは、小学生低学年の部（1～2年生）、同中学年の部（3～4年生）、同高学年の部（5～6年生）、中学生の部の4部門の最優秀賞受賞者に表彰状が授与された。



石原環境副大臣から表彰状を授与



受賞者の記念撮影

(3) 記念シンポジウム「^{niigata}新型イニシアティブ～知識と意識で3Rを推進～」

①基調講演「SDGsと3R促進、地域循環共生圏構想の推進」

環境省中央環境審議会循環型社会部会委員・3R活動推進フォーラム副会長 崎田裕子氏

・2015年、国連が「持続可能な開発のための2030年目標」(SDGs)を採択した。この目標の大きな特徴は、途上国も先進国も誰一人取り残すことなく全員で取り組み、世界を変えていくという17の目標と具体的な169のターゲットを明示していること。SDGsは、多様な目標が相互に関わりながら持続可能な社会をめざす流れを作っている。

・2018年4月に発表された第五次環境基本計画では、地域循環共生圏という新たな社会像を示した。これは、循環型社会、今日のテーマの3Rの分野でも大変重要になってきている。また、第四次循環型社会形成推進基本計画において5つの分野が大きなテーマとなったが、そのうち「ライフサイクル全体での徹底的な資源循環」では、まだまだリサイクルの課題が残っていることを話し合った。SDGsの目標と照らし合わせて考えたとき、SDGsの目標12と14が大きく関連している。

・SDGs目標12番の3に書かれている食品ロスについて。日本では、食品廃棄物は2,759万トン。



日本全体の食品の3分の1が廃棄物となっている。また、日本の食品廃棄物のうち約4分の1の643万トンが、まだ食べられるのに捨てられた食品ロスと言われている。国連が毎年世界82か国に食料支援をしている量が年間320万トンなので、世界への支援量の倍の量を日本は捨てている。SDGs目標14番には、海洋・海洋資源の保全というテーマがある。海洋プラスチックによる海洋汚染は地球規模で広がっている。2016年に、エレン・マッカーサー財団が2050年には海洋中のプラスチック量が魚など海洋生物の量より増えるとデータを公表した。陸域から海に出て、海洋を汚染しているプラスチックは多い。日本は、国民1人が1年間に出す使い捨て型のプラスチック容器包装の量が世界第2位となっている。

- ・日本では、プラスチック資源循環戦略を採択し、その中で3R+Renewableを基本原則としたマイルストーンを示した。具体的には2030年までにワンウェイのプラスチック容器包装を累計25%排出抑制や、再生材バイオマスプラの活用などがある。「プラスチック・スマート」キャンペーンがスタートしている。レジ袋の削減についても、富山県ではレジ袋有料化を10年前から実施し、マイバッグの持参率が現在95%となっている。この取組は大変高く評価されている。私たち1人1人がライフスタイルを見直していくことが重要である。

- ・東京2020大会では、SDGsの目標実現に貢献するため様々な取組が広がっている。特に資源管理に関しては調達物品の99%を再使用・再生利用、そして運営時廃棄物の65%を再使用・再生利用するという目標で組織委員会に取り組んでいただいている。また、食品ロス削減に向けても、アスリートの方にも協力していただく予定。再生金属100%のメダルをつくる「都市鉱山メダルプロジェクト」やプラスチックボトルを回収して作る「みんなの表彰台プロジェクト」の取組も進んでいる。これら取組を都市型の地域循環共生圏のモデル事例として、持続可能な社会に向けた挑戦のきっかけにしていいただければありがたい。大きな変革期の中、皆さんと共に力を合わせながら新しい持続可能な循環型社会を作っていきたい。

① 事例発表 新潟発「ライスバレーにいがたプロジェクト」

株式会社バイオマスレジ南魚沼 専務取締役 経営企画室室長 中谷内美昭氏

- ・バイオマスレジ南魚沼は、国産バイオマス資源を利用したバイオマスプラスチック樹脂原料の製造・販売、及び研究開発を行っている。

- ・SDGsのゴール13の気候変動や、14の海洋プラスチック問題に関して、バイオマスプラスチックとの関係性が非常に深い。プラスチック資源循環戦略やグリーン購入法でも、バイオマスプラスチックを推奨している。食品ロス削減推進法でもリサイクルの促進というキーワードが出てきている。

- ・バイオマスプラスチックの主力はアメリカ中心のトウモロコシ由来とブラジル中心のサトウキビ由来の2つがある。日本ではいずれも海外に依存しなければならず、価格の高騰やCO2排出量を考えると国産がよい。そこでお米のプラスチックを提案している。バイオマスレジの優位性は、国産資源の使用の他、価格は石油系のプラスチックとほぼ同等であること、射出成形やインフレーションなど各種成形が可能であること。

- ・新潟県はお米の収穫量が全国一で、造り酒屋や食品加工メーカーが多く、非食用米やフードロスなど、原料が調達できる。また、プラスチック加工メーカーが多く、県内で加工まで可能。色々な方と連携をとりプロジェクトを進めるため、ライスバレーにいがたプロジェクトを立ち上げた。

- ・取組としては、まずホームページ等SNSを活用して情報発信と、お米51%のプラスチックで作った新潟オリジナルのSDGsバッジでの情報発信。自治体指定ごみ袋をバイオマス化していくにあたり、CO2の削減目標を設定して啓蒙していく取組。バイオマスレジを使った製品開発などがある。ぜひ、新潟発の国産バイオマスプラスチックを応援していただきたい。



② パネルディスカッション ～食品ロス削減へ！これからのイニシアティブ～

【コーディネーター】

NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長

崎田裕子氏

【パネリスト】

新潟薬科大学応用生命科学部 特任講師

石丸亜矢子氏

イオンリテール株式会社北陸信越カンパニー広報・環境社会貢献グループマネージャー

山城篤司氏

新潟お笑い集団 NAMARA 代表

江口歩氏

新潟気軽に省エネくらぶ 代表

波多野千代氏

環境省環境再生・資源循環局総務課 循環型社会推進室長

富安健一郎氏



・市民、事業者、行政、それぞれの立場で食品ロスの問題に対しどのような取組をしているかの紹介の後、食品ロス削減をより一層進めるにはどのように取り組めばよいか意見交換を行った。意見交換では、どこに課題があるのか定量化し共有すること、次の世代に伝えること、各ステークホルダーが連携し具体的な仕組みを作っていくことの重要性について話し合われた。

(4) 次回開催地挨拶

和歌山県環境生活部 環境政策局長 古川勉氏

・大阪で今年開催されたG20 サミットにあわせて関西広域連合では「関西プラスチックごみゼロ宣言」をした。和歌山県では、プラスチックごみ対策や食品ロスの問題も力を入れている。和歌山は太平洋に面している海に囲まれた地域で、海ごみの問題・プラごみの問題が一番の課題になる。来年の3R推進全国大会ではそうした課題・テーマでやっていきたい。

・本日の皆様の熱い思いをもって、来年は和歌山へぜひお越しいただきたい。本日はお疲れさまでした。



(5) 3R推進展示コーナー

4階ホワイエに3R推進展示コーナーが設けられ、31団体が出展したほか、3R促進ポスターコンクール入賞作品が展示された。



展示コーナーを視察する石原副大臣と
崎田3R活動推進フォーラム副会長



(6) 名刺交換会

記念シンポジウム終了後、4階ホワイエの3R推進展示コーナーで、主催関係者や講師・パネリストと大会参加者による名刺交換会が行われた。



(7) 関連イベント

①施設見学会

本大会の関連イベントとして、新潟市と3R活動推進フォーラムが主催する新潟市亀田清掃センターの施設見学会が10月29日（火）午前中に行われた。

②にいがた市民環境フェア

10月20日（日）に、新潟市内の亀田駅前地域交流センターにて「にいがた市民環境フェア」（主催：にいがた市民環境会議 共催：新潟市、新潟市地球温暖化対策地域推進協議会）が開催され、新潟市、3R活動推進フォーラム、新潟気軽に省エネくらぶもブース出展した。



施設見学会



にいがた市民環境フェア

2. 令和元年度3R促進ポスターコンクールの実施

環境省及び3R活動推進フォーラムは、3Rを促進するため、作品の制作を通じて子どもたちの3Rの理解、態度変容を促すとともに、優秀な作品の表彰・活用を通じて、多くの国民の3Rの理解と態度変容を促進することを目的として、毎年、小学生、中学生を対象に3R促進ポスターコンクールを実施している。令和元年度の募集は小学生低学年、小学生中学年、小学生高学年、中学生の4部門で行われ、絵画としての評価、3Rに関するキャッチコピー、ポスターとしてのデザイン性、アピール度の観点から、各部門で最優秀作品1点、優秀作品3点、佳作10点を選定した。表彰式は第14回3R推進全国大会式典で行われ、最優秀賞受賞者の4名に環境省の石原宏高環境副大臣より表彰状が授与された。

(1) 応募状況

令和元年6月4日付環循総発第1906042号で環境省から各都道府県あて「令和元年度3R促進ポスターコンクールの実施について」が通知され、都道府県を通して全国の小、中学生を対象に3Rをテーマとしたポスターの募集が行われた。

締切日の9月12日（木）（郵送、消印有効）までに、送付された応募総数は、小学生低学年の部548点、同中学年の部1,531点、同高学年の部1,648点、中学生の部1,813点、合計5,540点であった。（次ページ「部門・県別応募数」参照）

(2) 審査

応募作品は環境省環境再生・資源循環局循環型社会推進室通知に示された3R促進ポスターコンクール実施要領に則り、指定サイズ外のもの、糊等を使用して張り付けた立体性のあるものなど規定に外れるもの、あるいは3Rに関するキャッチコピーのないものなどを除く粗選別を行ったうえ、2回の審査を経て選定された。

① 第一次審査

令和元年9月30日（月）

牛込箒笥地域センター コンドル

② 第二次審査

令和元年10月7日（月）

四ツ谷ひろば 多目的ホール

環境省、3R活動推進フォーラム、外部委員の合計5人の審査委員により、入賞作品を選考した。



第二次審査会

令和元年度3R推進ポスターコンクール 部門・県別応募数

都道府県	小学生低学年	小学生中学年	小学生高学年	中学生	合計
北海道	6	9	8	23	46
青森県	0	0	0	2	2
岩手県	1	0	0	20	21
宮城県	3	12	65	72	152
秋田県	0	0	0	0	0
山形県	0	1	0	10	11
福島県	0	0	0	12	12
茨城県	28	75	100	123	326
栃木県	7	10	13	5	35
群馬県	24	29	38	171	262
埼玉県	86	115	166	92	459
千葉県	17	117	113	1	248
東京都	10	34	7	53	104
神奈川県	2	12	14	28	56
新潟県	7	7	9	0	23
富山県	0	10	1	22	33
石川県	4	7	66	1	78
福井県	0	5	9	0	14
山梨県	5	2	5	19	31
長野県	0	53	9	0	62
岐阜県	2	20	14	22	58
静岡県	25	64	87	115	291
愛知県	278	584	690	540	2092
三重県	0	0	0	10	10
滋賀県	0	10	0	47	57
京都府	0	1	3	3	7
大阪府	2	159	12	32	205
兵庫県	7	21	35	80	143
奈良県	0	0	0	0	0
和歌山県	0	2	0	33	35
鳥取県	0	0	0	10	10
島根県	0	0	0	3	3
岡山県	0	1	0	5	6
広島県	0	0	2	0	2
山口県	1	1	3	21	26
徳島県	0	0	0	13	13
香川県	16	64	86	56	222
愛媛県	5	29	49	67	150
高知県	0	6	0	1	7
福岡県	0	22	0	17	39
佐賀県	6	21	11	24	62
長崎県	0	0	0	11	11
熊本県	2	12	10	22	46
大分県	0	0	0	0	0
宮崎県	3	11	12	25	51
鹿児島県	1	5	11	2	19
沖縄県	0	0	0	0	0
合計	548	1531	1648	1813	5540

(3) 入賞作品

令和元年度3R促進ポスターコンクール最優秀賞作品

◆小学生低学年の部



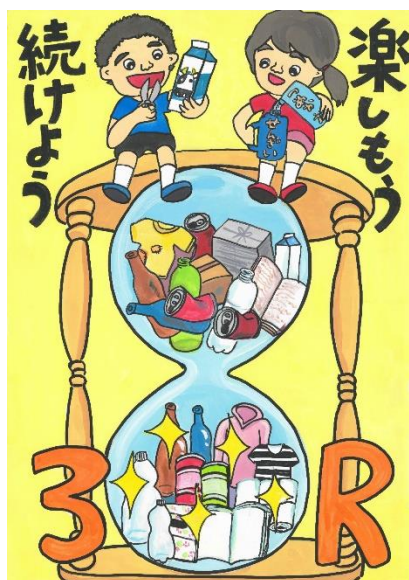
石川県金沢市
小坂小学校 1 年生

◆小学生中学年の部



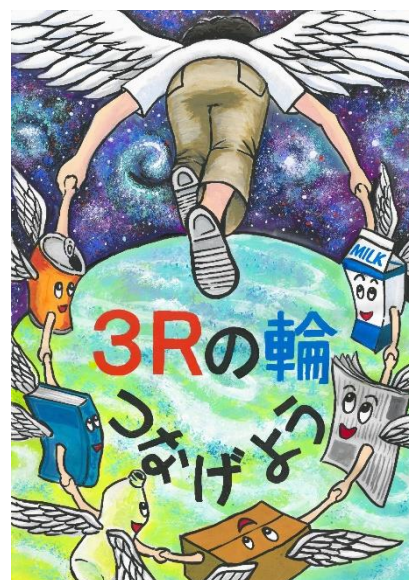
新潟県新潟市立
上所小学校 4 年生

◆小学生高学年の部



愛知県安城市立
新田小学校 6 年生

◆中学生の部



愛知県知立市立
知立南中学校 2 年生

小学生低学年(1・2年)の部 優秀賞・佳作入賞作品

◆優秀賞



石川県金沢市立
小坂小学校 2 年生



群馬県館林市立
第一小学校 2 年生



愛知県安城市立
桜井小学校 2 生

◆佳作



愛知県伊勢崎市立
茂呂小学校 2 年生



愛知県犬山市立
犬山北小学校 1 年生



香川県観音寺市立
豊浜小学校 2 年生



宮城県栗原市立
若柳小学校 2 年生



愛知県稲沢市立
稲沢東小学校 1 年生



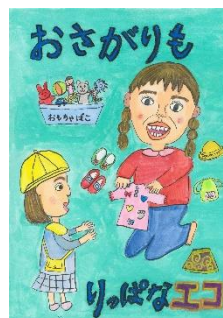
山梨県甲府市立
湯田小学校 2 年生



愛知県阿久比町立
英比小学校 1 年生



埼玉県加須市立
花崎北小学校 2 年生



静岡県浜松市立
佐鳴台小学校 2 年生



愛知県小牧市立
北里小学校 2 年生

小学生中学年(3・4年)の部 優秀賞・佳作入賞作品

◆優秀賞



愛知県犬山市立
犬山南小学校 4 年生



茨城県取手市立
戸頭小学校 3 年生



愛知県安城市立
桜町小学校 3 年生

◆佳作



福岡市古賀市立
古賀東小学校 4 年生



群馬県伊勢崎市立
宮郷小学校 4 年生



富山県富山市立
八尾小学校 4 年生



新潟県新潟市立
浜浦小学校 3 年生



愛知県安城市立
桜町小学校 4 年生



愛知県碧南市立
新川小学校 4 年生



栃木県那須塩原市立
大山小学校 4 年生



埼玉県川口市立
飯塚小学校 4 年生



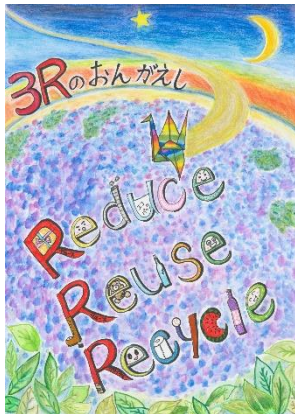
埼玉県鶴ヶ島市立
新町小学校 4 年生



石川県金沢市立
長坂台小学校 4 年生

小学生高学年(5・6年)の部 優秀賞・佳作入賞作品

◆優秀賞



東京都墨田区立
第三寺島小学校 6 年生



愛知県あま市立
甚目寺南小学校 6 年生



愛知県東海市立
加木屋小学校 6 年生

◆佳作



大阪府岸和田市立
光明小学校 6 年生



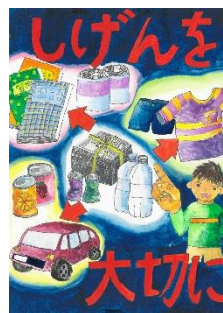
愛知県小牧市立
小牧原小学校 5 年生



岐阜県海津市立
石津小学校 5 年生



山梨学院小学校 5 年生



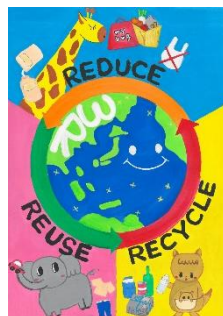
千葉県長南町立
長南小学校 6 年生



埼玉県蓮田市立
蓮田南小学校 5 年生



千葉県長南町立
長南小学校 6 年生



愛知県半田市立
半田小学校 6 年生



群馬県伊勢崎市立
あずま南小学校 6 年生



愛媛県砥部町立
麻生小学校 5 年生

中学生の部 優秀賞・佳作入賞作品

◆優秀賞



愛知県西尾市立
鶴城中学校 3 年生



愛知県西尾市立
鶴城中学校 3 年生



滋賀県東近江市立
能登川中学校 3 年生

◆佳作



香川県さぬき市立
長尾中学校 3 年生



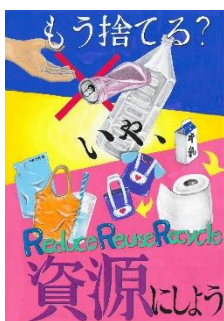
群馬県伊勢崎市立
あずま中学校 1 年生



滋賀県近江八幡市立
八幡東中学校 2 年生



群馬県伊勢崎市立
あずま中学校 1 年生



埼玉県久喜市立
栗橋東中学校 3 年生



大阪府寝屋川市立
第十中学校 2 年生



愛知県北名古屋市立
白木中学校 3 年生



宮城県栗原市立
若柳中学校 2 年生



愛知県刈谷市立
依佐美中学校 3 年生



愛知県刈谷市立
依佐美中学校 2 年生

(4) 表彰等

各部門の最優秀賞受賞者は、令和元年10月29日（火）に新潟市で開催された第14回3R推進全国大会式典で表彰（写真左）し、その他の入賞者には賞状を送付した。また、3R推進全国大会の会場では、全入賞作品を展示した（写真右）。



(5) 実施要領等

環循総発第 1906042 号

令和元年6月4日

（各都道府県知事） 殿

環境省 環境再生・資源循環局

循環型社会推進室長

（公印省略）

令和元年度3R促進ポスターコンクールの実施について

日頃から資源循環行政に、御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございます。

今般、「循環型社会」の実現に向けて、3Rの促進に関する啓発活動に資することを目的として、標記ポスターコンクールを別添実施要領に基づき実施することとしましたので、貴管内の市町村への周知・御協力方、格段の御配慮をお願いいたします。

令和元年度 3 R 促進ポスターコンクール 実施要領

1. 目 的

従来の大量生産・大量消費型の経済社会活動は、大量廃棄型の社会を形成し、環境保全と健全な物質循環の阻害に結び付く側面を有しています。我が国では、毎年、膨大な量の廃棄物が生ずるとともに、廃棄物等の多様化に伴う処理の困難化や不適正な処理による環境負荷の増大、最終処分場の残余容量の逼迫等さまざまな局面で深刻な状況が続いています。

私たちがこのような社会経済活動が続けた場合には、廃棄物を受け入れる環境容量の制約や資源制約に突き当たることになり、社会経済の持続可能な発展に支障を来すおそれがあります。

こうした現状を踏まえ、持続可能な社会に向けてさらに努力を傾注し、低炭素社会や自然共生社会に向けた取組とも統合して、天然資源の消費抑制と環境負荷の低減を目指すとともに 3 R（廃棄物の発生抑制（Reduce）、再使用（Reuse）、再生利用（Recycle））をはじめとした取組による、循環型社会の形成を、国内はもとより国際的にも実現していくことが喫緊の課題となっています。

また、循環型社会の形成に向けて、循環型社会形成推進基本法第 15 条の規定に基づき、平成 30 年 6 月 19 日に閣議決定された「第四次循環型社会形成推進基本計画」において、環境教育等促進法や ESD（持続可能な開発のための教育）を踏まえ、あらゆる場で行う環境教育、環境保全活動等を総合的に推進することとされています。

本コンクールは、3 R を促進するため、作品の制作を通じて子どもたちの 3 R の理解、態度変容を促すとともに、優秀な作品の表彰・活用を通じて、多くの国民の 3 R の理解と態度変容を促進することを目的とするものです。

2. 主 催

環境省及び 3 R 活動推進フォーラム

3. 募集区分

作品の募集は以下の区分ごとに行う。

- ・小学生低学年の部（1 年生、2 年生）
- ・小学生中学年の部（3 年生、4 年生）
- ・小学生高学年の部（5 年生、6 年生）
- ・中学生の部

4. 応募規格、応募方法等

（1）応募規格

- ① 作品（ポスター）のサイズは、四つ切り画用紙（380 mm×540 mm）又は B 3 版（364 mm×515 mm）とし、規格外の応募は、無効とする。
- ② 作品は手描きとし、パソコン等を使用した作品、立体性のある作品（糊等を使用して張り付けたもの、切り絵等）は無効とする。
- ③ 応募作品は、循環型社会の構築に向けて、3 R（リデュース：廃棄物の発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再生利用）の理解をより一層深めるという観点から、

- ・絵画としての評価
- ・3 Rに関するキャッチコピー
- ・ポスターとしてのデザイン性、アピール度から総合的に審査する。このため、地球温暖化問題や水の節約など3 Rとは異なったテーマでの応募は無効とする。
- また、英語のつづりの間違い、誤字等があった場合も無効とする。

- ④ 応募は未発表のオリジナル作品に限る。他の作品の模倣・類似と認められる作品は、入賞決定後であっても賞を取り消す場合がある。

- (2) 応募方法等
別に定める。

5. 審査方法及び審査基準

「別紙：令和元年度3 R促進ポスターコンクールの審査方法及び審査基準について」のとおりとする。

6. 賞の授与

募集区分ごとに以下の賞を授与する。

最優秀賞	1点	賞状
優秀賞	3点	賞状
佳作	10点	賞状

7. 入賞作品の決定及び通知

入賞作品は、5. に定める審査方法を経て環境大臣が決定する。また、入賞の通知は環境省（本業務請負者を含む）にて行う。

8. 表彰方法

最優秀賞については、10月29日(火)に開催する「第14回3 R推進全国大会（新潟市）」において、環境大臣表彰を行うこととする。

優秀賞及び佳作については、入賞者の属する学校に賞状を送付することによって、当省による表彰に代えることとする。

9. その他留意事項

受賞作品を含む全ての応募作品は、返却しないものとする。

最優秀賞作品の著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含みます）商標権、意匠権、その他の知的財産権、所有権等の一切の権利を環境省に無償で譲渡し、また、当該作品に関する著作者人格権その他一切の人格権を環境省及びその指定する者に対して行使しない旨ご了解いただきます。

（受賞作品を活用する場合は、制作者の氏名（学年）、学校名とともに掲載する予定）

10. 個人情報の取り扱い

応募者の個人情報については、応募や審査に関するご連絡やその他審査事務に必要な範囲のみで使用します。また、審査委員会その他審査事務に関わる第三者に必要な限りで提供することがあります。

その他環境省における個人情報の取扱いについては、公式のプライバシーポリシーをご確認ください。

事 務 連 絡
令和元年6月4日

都道府県
3R促進ポスターコンクール担当者 殿

環境省環境再生・資源循環局
循環型社会推進室

令和元年度3R促進ポスターコンクールの応募方法等について

資源循環行政の推進につきましては、かねてより御高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、標記については、同封した令和元年6月4日付環循総発第1906042号により依頼させていた
だきましたが、具体的な応募方法については、「令和元年度3R促進ポスターコンクール実施要領」（以
下、「実施要領」という）4.(2)に基づき、下記のとおり定めましたので、御留意の上、ご応募してい
ただくよう、管内の市区町村及び私立学校への周知方よろしく願いいたします。

また、本件関連資料一式は、別途、各都道府県循環型社会関連部局宛てへメールにてお送りし
ておりますので、併せてご確認ください。

記

1. 応募方法

(1) 作品の裏面には、必要事項を記入した「別紙様式」を必ず貼付すること。

(記入された個人情報が入賞者への連絡にのみ使用します。)

(2) 作品の応募数は、1学校につき募集区分(「実施要領」3を参照)ごとに「10点以内」とします。

(3) 作品は、折ったり、丸めたりしないこと。

2. 作品の提出期限等

作品を募集区分ごとに取りまとめの上、下記の提出先へ、令和元年9月12日(木)まで(消印有効)に提出して下さい。(提出期限を越えたものはすべて無効とします。)

【提出先】

〒130-0026 東京都墨田区両国3丁目25-5 JEI 両国ビル8階
公益財団法人廃棄物・3R研究財団内 3R活動推進フォーラム 宛
T E L : 03-6908-7311 F A X : 03-5638-7164
E-mail poscon@3r-forum.jp

3. 応募作品数のご報告

貴都道府県におかれましては、下記(1)(2)により集計した内容を、「別紙1」及び「別紙2-1」、「別紙2-2」にとりまとめた上、その写しを、令和元年9月12日(木)までに、上記2の提出先へ、E-mailにてご提出ください。

- (1) 管内の市区町村から報告を受けた「別紙2-1」応募一覧表を集計する。
- (2) 貴都道府県の私立学校の所管課から報告を受けた「別紙2-2」応募一覧表を集計する。

4. ポスターコンクールの広報

管内の市区町村及び私立学校において、本コンクールの広報等を実施される場合は、「実施要領」をご活用下さい。

5. その他

近年、英語のつづり間違い、誤字等が散見されます。その場合、応募は無効となりますのでくれぐれも御注意下さい。

また、3Rに関する情報については、下記ページをご覧ください。

(参考サイト)

- ・環境省「循環型社会・3R関連」<http://www.env.go.jp/recycle/circul/index.html>
- ・Re-Style「3Rってなに？」<http://www.re-style.env.go.jp/about/>

【参 考】(平成30年度の応募実績)

募集区分	有効応募数
小学校低学年の部(1、2年生)	576
小学校中学年の部(3、4年生)	1,478
小学校高学年の部(5、6年生)	1,754
中学校の部	1,562
計	5,370

【別紙様式】

ふりがな 氏 名			
年 齢		学 年	
作品コメント (50文字以内で、作品にこめられた環境への思いなどを書いてください。)			
ふりがな 学 校 名			
ふりがな 学 校 の 住 所	〒		
学校の電話番号			

*本票は、必要事項を記入の上、作品（ポスター）の裏面に貼って下さい。

*応募規格に合わないもの（手描きでないもの、つづり間違いのあるもの等）は無効になります。

応募規格は、「実施要領」で確認して下さい。

3. 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰の推薦

循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰は、廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用の3Rの適切な推進等、先駆的又は独創的な取組により循環型社会の形成について顕著な功績があった企業、団体、個人の功績をたたえとともに、循環型社会の形成等を図ることを目的に、毎年環境省が実施しているもので、3R活動推進フォーラムでは、平成18年度から環境省に対して推薦を行っている。

なお、令和元年度は、3R活動推進フォーラムの会員団体へ応募を募ったところ推薦希望がなかった。

令和元年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰の受賞は、6企業、6団体が受賞した。表彰式は第14回3R推進全国大会式典で行われた。（18ページに受賞者一覧を掲載）

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領

I 目的

本制度は、総物質投入量・資源採取量・廃棄物等発生量・エネルギー消費量の抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）、熱回収（エネルギーリカバリー）の適切な推進、廃棄物の収集運搬・処分事業、浄化槽の設置・保守点検・清掃及び製造等の事業、ねずみ・衛生害虫等の防除及び清掃等による生活環境の改善、廃棄物処理技術に関する研究等に顕著な功績があった個人、企業、団体又は地区を表彰し、その功績をたたえ、もって循環型社会の形成、廃棄物の減量その他その適正な処理の確保、浄化槽によるし尿及び雑排水の適正な処理の推進その他生活環境の保全に資することを目的とする。

II 表彰の対象

次の1から6までのいずれかに該当する個人、企業、団体又は地区を表彰の対象とする。

ただし、春秋叙勲による勲章受章者、環境衛生事業功労者厚生大臣表彰、生活環境改善事業功労者等環境大臣表彰を受けた者（地区）を除く。

1 循環型社会形成推進功労者

先駆的又は独創的な取組により、循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体であって、次のいずれかに該当するもの。

(1) 3R活動推進功労（個人）

廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を展開し、これらの活動の推進に熱意と識見を有する者。

ただし、これらの活動を廃棄物の収集運搬・処分事業として行う者を除く。

(2) 3R活動推進功労（団体）

廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を目的とする団体であって、これらの活動を継続的かつ着実に推進してきたもの。

ただし、公益法人（社団法人、財団法人）、営利を目的とする団体及び宗教上の教義を広める活動を行う団体を除く。

(3) 3R活動優良企業（企業）

廃棄物等の発生抑制、循環的な利用及び適正処分を実現した企業であって、次のいずれかに該当するもの。

イ その工場又は事業所等の事業に係る拠点において、当該事業活動に伴う廃棄物等の大幅な発生抑制又は循環的な利用の大幅な拡大を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの。

ロ その製品等について、廃棄物等としての相当程度の発生抑制、循環的な利用の相当程度の拡大又は適正処分の飛躍的な向上を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの。

ハ 廃棄物等の大幅な発生抑制、循環的な利用の大幅な拡大又は適正処分の飛躍的な向上のための技術、製品又はシステムを実用化し、かつその普及を図る企業。

(2～6 省略)

Ⅲ 被表彰者の決定

1 被表彰者決定の手続

被表彰者（又は団体）は、都道府県、（Ⅱ 1 については）3R活動推進フォーラム又は（Ⅱ 2～6 については）環境省が適切と判断する団体が推薦する者（又は団体）について、別途定める表彰選考会の審査を経て環境大臣が決定する。

被表彰者の推薦については、Ⅱに定める被表彰者の功績の区分ごとに別紙様式1 から8により、別途定める推薦者数の範囲内で毎年7月1日までに大臣あて行うものとする。

2 表彰の方法

表彰の方法は、被表彰者の功績の区分別に表彰状を授与して行うものとし、その時期及び場所は、別途、被表彰者に通知するものとする。

4. 連携・協働事業

(1) セミナー等の開催

食品ロス削減の推進やマイクロプラスチック海洋ごみ対策問題等をテーマに、都道府県、3R推進団体連絡会、NPO 団体など会員団体との連携セミナー等を12回にわたって開催した。なお、会員から強く要望のあった実務講座については、令和元年度に実証的に実施をして、講座プログラム作成の問題点等を把握した。

1) 3R活動推進フォーラムの自主事業による共催

①令和元年度エコライフ・アクト大会

□主催：環境とやま県民会議、富山県、公益財団法人とやま環境財団

□共催：3R活動推進フォーラム

□日時：令和元年6月22日（土）13:30～15:30

□会場：グランドプラザ

□参加者数：250名

□内容：

・挨拶 環境とやま県民会議会長（富山県知事） 石井隆一氏

・表彰式 富山県環境部門功労者表彰 環境月間ポスター表彰

・環境とやま県民会議活動方針報告

・「いつでも、どこでもマイバッグ運動」キックオフイベント

・園児によるエコ活動事例発表 認定こども園 国吉ちくば保育園

・親子向け講演会

トークショー マシンガンズ・滝沢秀一氏

ごみ拾いパフォーマンス 一世一代時代組（ゴミ拾い侍）



石井富山県知事



滝沢氏

②令和元年度廃棄物・3R研究財団&3R活動推進フォーラム年次報告会

□主催：公益財団法人廃棄物・3R研究財団、3R活動推進フォーラム

□日時：令和元年10月4日（金）13:10～16:30

□会場：江戸東京博物館 会議室

□参加者数：98名

□内容：

- ・特別講演「最近の廃棄物政策の動向と今後の展望について」

環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課長

名倉良雄氏

- ・調査研究等報告

「プラスチックの高度なリサイクルに資する省CO2型設備導入への補助金について」

（公財）廃棄物・3R研究財団事業支援部技術担当部長

佐藤善樹氏

「海面最終処分場の廃止と跡地利用 検討・調査」

（公財）廃棄物・3R研究財団技術振興部長

東海林俊吉氏

「災害廃棄物対策の強化に向けた自治体の人材育成について」

（公財）廃棄物・3R研究財団企画部上席研究員

夏目吉行氏

「海外循環ビジネス支援センターの活動概要」

（公財）廃棄物・3R研究財団海外循環ビジネス支援センター副センター長

松村隆氏

「中小廃棄物処理施設の廃棄物エネルギー回収に関する共同研究」

（公財）廃棄物・3R研究財団企画部上席研究員

渡辺洋一氏

「焼却主灰の資源化・リサイクルに関する新たな方式の調査研究」

（公財）廃棄物・3R研究財団企画部主任研究員

山口純二氏

「3R活動推進フォーラムの活動報告 ～事業活動報告と資源循環・3R推進に向けて～」

3R活動推進フォーラム事務局長

藤波博氏



名倉氏



藤波氏

③ごみ減量自治体会議 in 関東

- 主催：大阪ごみ減量推進会議
- 共催：3R活動推進フォーラム
- 協力：ごみ減量ネットワーク
- 助成：地球環境基金
- 日時：令和2年1月27日（月）13:30～16:30
- 会場：公益財団法人廃棄物・3R研究財団 会議室
- 参加者数：21名
- 内容：

- ・話題提供1「SDGs とごみ問題」
大阪産業大学教授、大阪ごみ減量推進会議会長 花田真理子氏
- ・話題提供2「循環・3R政策の国内外の動向」
公益財団法人廃棄物・3R研究財団調査部長 藤波博氏
- ・話題提供3「プラスチック資源循環戦略について」
環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室 永元雄大氏



花田氏



藤波氏



永元氏

④循環・3Rリレーセミナー ～対応が進む日本の資源循環(プラスチック・食品ロス削減等)～

- 主催：リデュース・リユース・リサイクル推進協議会、3R活動推進フォーラム
- 日時：令和2年2月7日(金)13:30～16:30
- 会場：アイビーホール「ミルトス」
- 参加者数：107名
- 内容：

<第1部>

- ・基調講演「持続可能な社会に向けた資源循環経済ビジネスの課題と展望」
リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長、3R活動推進フォーラム会長
(中部大学経営情報学部教授/慶應義塾大学名誉教授) 細田衛士氏

<第2部> 話題提供

- ・「資源循環政策の動向」
環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室長 富安健一郎氏
- ・「食品ロス削減の推進と農林水産業・食品産業におけるプラスチック資源循環の取組」
農林水産省食料産業局バイオマス循環資源課食品産業環境対策室長 野島昌浩氏
- ・「プラスチック資源循環戦略と資源循環政策について」
経済産業省産業技術環境局資源循環経済課長 横手広樹氏

<第3部> トピックス

- ・「プラスチック削減・食品ロス削減に向けた取り組み」
株式会社セブン-イレブン・ジャパン
サステナビリティ推進室総括マネジャー兼環境部会長 西山純生氏
- ・「プラスチック資源循環の課題と展望」
一般社団法人プラスチック循環利用協会専務理事 井田久雄氏



細田氏



富安氏



野島氏



横手氏



西山氏



井田氏

2) 3 R推進団体連絡会との連携セミナー

①容器包装交流セミナーin福岡

～容器包装の3 Rに関する市民・自治体・事業者との意見交換会～

□主催：3 R推進団体連絡会、3 R活動推進フォーラム

□日時：令和元年7月26日（金）13:00～16:45

□会場：パピヨン24「第12会議室」

□参加者数：50名

□内容：

<第1部>話題提供

- ・話題1「プラスチックを取り巻く国内外の状況」

環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室

寺石杏映氏

- ・話題2「福岡県における容器包装廃棄物処理の現状とリサイクルの取組について」

福岡県環境部循環型社会推進課主任技師

大内隆弘氏

- ・話題3「福岡市の3 Rの取組み」

福岡市環境局循環型社会推進部家庭ごみ減量推進課家庭ごみ企画係長

矢野沙織氏

- ・話題4「生活者とプラスチック製容器包装」

NP0法人エコけん理事長

清水佳香氏

- ・話題5「容器包装の3 Rに関する最新情報」

3 R推進団体連絡会幹事

久保直紀氏

<第2部>グループ討論

- ・3つのワーキンググループによる意見交換
- ・全体総括（グループ報告、全体報告）



寺石氏



大内氏



矢野氏



清水氏



久保氏



第1部の模様



グループ別の意見交換会

②容器包装交流セミナーin京都

～容器包装の3Rに関する市民・自治体・事業者との意見交換会～

□主催：3R推進団体連絡会、3R活動推進フォーラム

□日時：令和元年11月22日（金）13：00～16：50

□会場：京都テルサ東館「大会議室」

□参加者数：50名

□内容：

<第1部>

基調講演

- ・「プラスチックを取り巻く国内外の状況」

環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室主査

高木慶大氏

話題提供

- ・話題1「京都府循環型社会推進課の主な取組について」

京都府府民環境部循環型社会推進課課長

笠原淳史氏

- ・話題2「京都市のごみ減量・リサイクルの取組」

京都市環境政策局循環型社会推進部ごみ減量推進課技術担当課長

勝見潤子氏

- ・話題3「海ごみ、脱プラ、世界とつながる私たちの暮らし」

京都市ごみ減量推進会議

堀孝弘氏

- ・話題4「容器包装の3Rに関する最新情報」

3R推進団体連絡会幹事

久保直紀氏

<第2部>グループ討論

- ・3つのワーキンググループによる意見交換

- ・全体総括（グループ報告、全体報告）



高木氏



笠原氏



勝見氏



堀氏



久保氏



第1部の模様



グループ別の意見交換会

③ 容器包装交流セミナーin秋田

～容器包装の3Rに関する市民・自治体・事業者との意見交換会～

□主催：3R推進団体連絡会、3R活動推進フォーラム

□日時：令和2年2月13日（木）13:00～16:15

□会場：TKPメトロポリタン秋田カンファレンスセンター「ジュエルA」

□参加者数：40名

□内容：

<第1部>

基調講演

- ・「プラスチックを取り巻く国内外の状況」

環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室室長補佐

今井亮介氏

話題提供

- ・話題1「秋田県の一般廃棄物の現状等について」

秋田県生活環境部環境整備課 主幹(兼)調整・循環型社会推進班班長

小柳和己氏

- ・話題2「環境共生都市大館市における3R推進事業」

大館市市民部環境課環境企画係係長

成田修氏

- ・話題3「環境・社会貢献活動」

環境省3R推進マイスター・秋田県環境審議会委員

山本まゆみ氏

- ・話題4「容器包装の3Rに関する最新情報」

3R推進団体連絡会幹事

久保直紀氏

<第2部>グループ討論

- ・3つのワーキンググループによる意見交換
- ・全体総括（グループ報告、全体報告）



今井氏



小柳氏



成田氏



山本氏



久保氏



第1部の模様



グループ別の意見交換会

3) 会員との連携セミナー

①プラスチック削減戦略セミナーin 福井

～海洋プラスチックごみ等プラスチック資源循環戦略を考える～

□主催：福井県 3R活動推進フォーラム

□協力：「プラスチック・スマート」フォーラム

□日時：令和元年11月26日（火）13:00～16:00

□会場：福井県庁「正庁」

□参加者数：64名

□内容：

基調講演

- ・「海洋プラスチックごみ問題の現状と今後の方向性」

環境省水・大気環境局水環境課海洋環境室室長

中里靖氏

話題提供

- ・話題1「北陸2県の海洋ごみ対策の現状と課題」

「富山県の海岸漂着物対策～『世界で最も美しい富山湾』の保全～」

富山県生活環境文化政策課主任

飯野弘奈氏

「福井県における海洋ごみの現状と対策について」

福井県安全環境部循環社会推進課主任

松田祐民子氏

- ・話題2「プラスチック資源循環の基礎知識」

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会専務理事

久保直紀氏

- ・話題3「『プラスチック・スマート』フォーラム事業」

一般財団法人日本環境衛生センター研修事業部長

村岡良介氏



中里氏



飯野氏



松田氏



久保氏



村岡氏

②プラスチックセミナーin 岩手

～海洋プラスチックごみ対策とプラスチック資源循環戦略を考える～

□主催：岩手県 3R活動推進フォーラム

□協力：「プラスチック・スマート」フォーラム

□日時：令和2年2月4日（火）13:30～16:10

□会場：マリオス「188会議室」

□参加者数：100名

□内容：

基調講演

- ・「海洋プラスチックごみ問題の現状と今後の方向性」

環境省水・大気環境局水環境課海洋環境室室長

中里靖氏

事例発表

- ・事例1「岩手県立宮古水産高等学校のプラスチックごみ・マイクロプラスチック調査研究活動」

岩手県立宮古水産高等学校海洋技術科教諭

黒澤長氏

- ・事例2「『プラスチック・スマート』フォーラム事業」

一般財団法人日本環境衛生センター研修事業部事業推進役

鈴木弘幸氏

- ・事例3「『ゼロエミッション東京』を目指す『プラスチック削減プログラム』の概要」

東京都環境局資源循環推進部専門課長

古澤康夫氏

・事例4「プラスチック資源循環の基礎知識」

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会専務理事

久保直紀氏



中里氏



黒澤氏



鈴木氏



古澤氏



久保氏

※「プラスチック削減戦略セミナーin和歌山」（令和2年3月18日開催予定）は、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止する観点から、開催を中止しました。

4) 3R活動推進フォーラム環境塾

①自治体シリーズ「自治体職員のための初級実務講座～資源循環・3Rの推進に向けて～」

□主催：3R活動推進フォーラム

□日時：令和元年7月5日（金）9:15～16:50

令和元年7月12日（金）9:15～16:50

□会場：公益財団法人廃棄物・3R研究財団会議室

□参加者数：（7月5日）12名、（7月12日）11名 計23名

□内容：

・Ⅰ．「行政概論（廃棄物処理法等の実務知識）」

公益財団法人廃棄物・3R研究財団調査部長

藤波博氏

・Ⅱ．「行政概論（総合判断説及び違法行為の実務知識）」

公益財団法人廃棄物・3R研究財団調査部長

藤波博氏

・Ⅲ．「一般廃棄物処理計画論」

（5日）株式会社エックス都市研究所環境エンジニアリング事業本部主席研究員

吉川克彦氏

（12日）株式会社エックス都市研究所環境エンジニアリング事業本部取締役本部長

中石一弘氏

・Ⅳ．「講話（廃棄物政策の変遷と今後の展望）」

（5日）公益社団法人全国都市清掃会議専務理事

大熊洋二氏

（12日）公益社団法人全国都市清掃会議事務局長

稲垣正氏

・Ⅴ．「プラスチック特論（プラスチックの資源循環：リサイクル）」

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会専務理事

久保直紀氏

・Ⅵ．「循環経済特論（EUの循環経済(CE)政策とリサイクル制度）」

公益財団法人地球環境戦略研究機関プログラムマネージャー

栗生木千佳氏

・Ⅶ．「災害廃棄物計画論（災害廃棄物対策について）」

環境省関東地方環境事務所巨大災害廃棄物対策専門官

宇田仁氏

・Ⅷ．受講者との意見交換

・名刺交換会



藤波氏



吉川氏



中石氏



大熊氏



稲垣氏



久保氏



粟生木氏



宇田氏



② 事業者(リサイクル)シリーズ

「資源循環・3R推進講座～国内外の資源循環ビジネスの動き～」

□主催：3R活動推進フォーラム

□後援：日本再生資源事業協同組合連合会

□日時：令和元年8月2日(金)13:00～16:45

□会場：主婦会館プラザエフ「スズラン」

□参加者数：76名

□内容：

- ・講座1「循環法制実務～廃棄物処理法を中心として～」

公益財団法人廃棄物・3R研究財団調査部長

藤波博氏

- ・講話「温暖化対策と循環経済のメガトレンド」

元環境省地球環境審議官・公益財団法人廃棄物・3R研究財団理事長

梶原成元氏

- ・講座2「EUCE（循環経済）政策の概要について」

公益財団法人地球環境戦略研究機関プログラムマネージャー

粟生木千佳氏

- ・講座3「高度ソーティングによる高品質な製品づくり」

トムラソーティング株式会社代表取締役

佐々木恵氏

- ・講座4「プラスチック資源循環戦略と産業界の動向」

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会専務理事

久保直紀氏



藤波氏



梶原氏



粟生木氏



佐々木氏



久保氏



③ 市民・NP0シリーズ「資源循環・3R推進講座～市民・NP0が知っておきたい3R基礎知識～」

□主催：NP0法人持続可能な社会をつくる元気ネット、3R活動推進フォーラム

□日時：令和2年1月31日(金)10:00～16:00

□会場：北とぴあ「スカイホール」

□参加者数：22名

□内容：

<実務講座>

・参加者自己紹介

・講座1「廃棄物処理法概論」

3R活動推進フォーラム専任理事・事務局長兼公益財団法人廃棄物・3R研究財団調査部長

藤波博氏

・講座2「リサイクル法概論」

NP0法人持続可能な社会をつくる元気ネット事務局長

鬼沢良子氏

<ワークショップ>

・情報1「『脱・使い捨てプラ』と『美味しいビール』を実現する

“森のタンブラー”の社会実装～イノベーションで推進する行動変革～

アサヒビール株式会社イノベーション本部パッケージング技術研究所

古原徹氏

・情報2「イオングループからの最新情報」

イオン株式会社執行役（環境・社会貢献・PR・IR担当）付

金丸治子氏

・情報3「SDGs（持続可能な開発目標）とは～食の循環によるSDGsの実践事例～」

株式会社日本フードエコロジーセンター代表取締役

高橋巧一氏

情報提供をもとにSDGsと今後の3Rについてワークショップを実施

・各グループからワークショップ報告を行うとともに情報交換を実施した。

※ケニア視察団が研修講座の状況視察を行った。



藤波氏



鬼沢氏



古原氏



金丸氏



高橋氏



実務講座の様様



ワークショップの様様

(2) その他の後援・協賛等

1) 後援

①実践活動としてのスチール缶を含む集団回収を通じて環境教育に取り組む小・中学校への支援事業

・主催：スチール缶リサイクル協会

・応募期間：令和元年6月1日(土)～令和元年10月31日(木)

②2019建設リサイクル技術発表会・技術展示会

・主催：建設副産物リサイクル広報推進会議、北海道地方建設副産物対策連絡協議会

- ・技術発表会：令和元年10月2日（水）
- ・技術展示会：令和元年10月2日（水）～3日（木）
- ③令和元年度建設副産物リサイクル広報用ポスター
 - ・実施主体：建設副産物リサイクル広報推進会議
 - ・掲出期間：令和元年10月1日（火）～令和2年9月30日（水）
- ④第14回容器包装3R推進フォーラム
 - ・主催：3R推進団体連絡会
 - ・開催日：令和2年1月28日（火）
 - ・会場：千代田区立内幸町ホール

2）協賛

- ①令和元年度環境衛生週間
 - ・主唱：環境省、都道府県及び市町村
 - ・期間：令和元年9月24日（火）～10月1日（火）
- ②第18回「産業廃棄物と環境を考える全国大会」
 - ・主催：（公社）全国産業資源循環連合会、（公財）日本産業廃棄物処理振興センター、（公財）産業廃棄物処理事業振興財団
 - ・開催日：令和元年11月15日（金）
 - ・会場：ホテルオークラ神戸

3）協力

- ①平成31年度「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」
 - ・実施主体：環境省、内閣府、総務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省他関係省庁、都道府県、市町村、全国知事会、全国市長会、全国町村会等
 - ・期間：令和元年5月30日（木）～6月5日（水）
- ②第12回3R・低炭素社会検定
 - ・主催：3R・低炭素社会検定実行委員会
 - ・試験日：令和元年11月10日（日）
 - ・会場：東京会場（武蔵野大学有明キャンパス）

4）講師・審査会委員の派遣

- ①3R・低炭素社会検定講習会講師（3R・低炭素社会検定実行委員会主催）
令和元年10月5日（土） 公益財団法人廃棄物・3R研究財団 会議室
- ②実践活動としてのスチール缶を含む集団回収を通じて環境教育に取り組む小・中学校への支援事業審査会委員

5）清掃活動および散乱防止・美化キャンペーン（スチール缶リサイクル協会との連携事業）

- ①令和元年6月1日（土）
沖縄クリーンコーストネットワーク（OCCN）主催の「まるごと沖縄クリーンビーチ2019」にスチール缶リサイクル協会とともに参加し、豊崎美らSUNビーチにおいて、海岸清掃を行った。さらに、メンバー17名で観光客やクリーンビーチ参加者に対して、あき缶のポイ捨て防止等の協力をお願いする啓発活動を実施した。



豊崎美ら SUN ビーチでの清掃活動および散乱防止・美化キャンペーン啓発活動

②令和元年11月24日(日)

焼津市主催の「やいずビーチクリーン大作戦」にスチール缶リサイクル協会とともに参加し、石津海岸公園付近において海岸清掃を行った。さらに、メンバー19名で焼津駅前の通行人に対して、あき缶のポイ捨て防止等の協力をお願いする啓発活動を実施した。



石津海岸での清掃活動および焼津駅前の散乱防止・美化キャンペーン啓発活動

5. 広報普及活動

(1) 展示会への出展

①(公社)全国都市清掃会議春季評議委員会及び定時総会展示コーナー

- ・開催日：令和元年5月22日(水)～23日(木)
- ・会場：川崎市コンベンションホール
- ・内容：公益財団法人廃棄物・3R研究財団とともにパネル展示を行った。



②エコライフ・フェア2019

- ・開催日：令和元年6月1日(土)～2日(日)
- ・会場：都立代々木公園ケヤキ並木及びイベント広場
- ・内容：3Rカードクイズを行うとともに、3R関連資料を配布。また、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットによる3Rのクイズも行われた。2日間の来場者数は35,618人(主催者発表)で、当フォーラムブースには511人が訪れた。



ブースの模様



3Rカードクイズを楽しむ子どもたち

③にいがた市民環境フェア

- ・開催日：令和元年10月20日(日)
- ・会場：亀田駅前地域交流センター
- ・内容：第14回3R推進全国大会関連イベントである「にいがた市民環境フェア」にブース出展し、パネル展示や3Rに関する資料配布などを行なった。フェア来場者数は約500名（主催者発表）。



会場の模様



ブース展示の模様

④第14回3R推進全国大会会場内展示コーナー

- ・開催日：令和元年10月29日(火)
- ・会場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 4階 ホワイエ
- ・内容：パネル展示(写真右)と資料配布



(2) 刊行物等の発行

①年次報告書の作成

3R活動推進フォーラムの平成30年度の事業を中心に報告書を作成し（写真左上）、会員、都道府県等関係先に送付した。

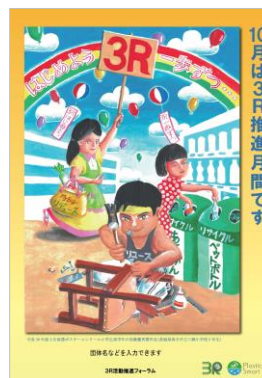
②容器包装交流セミナー報告書2019の作成

容器包装の3Rに関する市民、自治体、事業者との意見交換会のポイントをまとめた報告書を作成（写真右上）し、都道府県、市区町村、一部事務組合等へ送付した。

③その他

- ・3R推進月間用ポスターの作成

平成30年度3R促進ポスターコンクール入賞作品を使用した2種類の3R推進月間用のポスターデータを作成し、希望者に提供した。



3R推進月間用ポスター

(3) インターネットを活用した情報発信

①ホームページによる情報発信

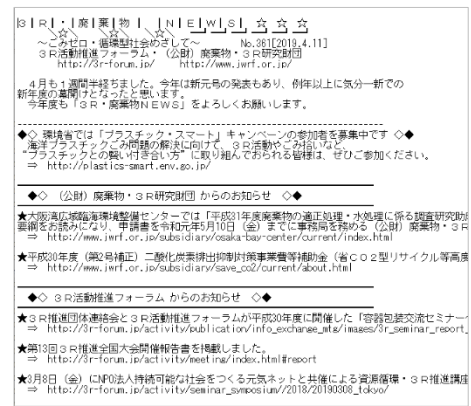
ホームページに各種お知らせ、開催イベントの様式及び関連資料、発行済みの刊行物・メールマガジン等を掲載した。

②メールマガジン「3R・廃棄物ニュース」の配信

関係省庁、都道府県、政令指定都市、会員団体等の情報を月3回配信した。

③3R活動推進フォーラム事務局通信の配信

会員向けに事務局の業務報告などを事務局通信として年5回配信した。



メールマガジン「3R・廃棄物ニュース」

(4) 新聞・雑誌等における記事・広告掲載等

1) 記事

①ウエイスト・マネジメント

- ・令和元年9月15日 3R推進全国大会開催告知
- ・令和元年10月25日 3R推進全国大会開催告知
- ・令和元年11月5日 3R推進全国大会開催結果、プラスチック削減戦略セミナーin福井及び容器包装交流セミナーin京都開催告知
- ・令和元年12月15日 資源循環・3R推進講座開催告知
- ・令和2年1月15日 プラスチックセミナーin岩手及び容器包装交流セミナーin秋田開催告知



ウエイスト・マネジメント
令和元年 10月25日

②環境新聞

- ・令和元年10月23日 3R推進月間特集号

③循環経済新聞

- ・令和元年10月7日 3R推進全国大会開催告知
- ・令和元年11月18日 3R推進全国大会開催結果
- ・令和元年12月2日 容器包装交流セミナーin京都開催結果



月間廃棄物 12月号

④月刊廃棄物

- ・令和元年10月号 3R推進全国大会開催告知
- ・令和元年12月号 3R推進全国大会開催結果

⑤都市と廃棄物

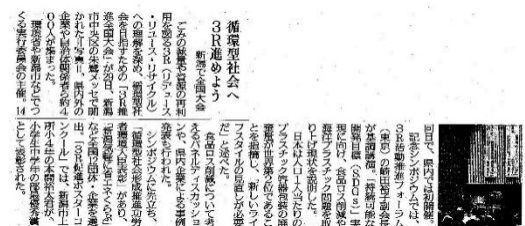
- ・令和元年12月号 3R推進全国大会開催結果

⑥新潟日報

- ・令和元年10月30日 3R推進全国大会開催結果

⑦和歌山県広報誌「県民の友」

- ・令和2年2月号 プラスチック削減戦略セミナーin和歌山開催告知



新潟日報 令和元年 10月30日

2) 広告

① ウェイスト・マネジメント

- ・令和元年10月25日 3 R推進全国大会特集号連名広告

② 環境新聞

- ・令和元年10月16日 3 R推進全国大会告知広告
- ・令和元年12月4日 令和元年台風被害緊急支援広告
- ・令和2年1月1日 新年号特集企画名刺広告

6. 会員サービスの充実

(1) 会員との連携・協働事業の実施

- ①自治体など会員団体とセミナー等を開催した。(前掲36～45ページ)
- ②自治体など会員団体が開催する展示会に出展するとともに、第14回3 R推進全国大会展示コーナーに会員団体が出展した。(前掲21ページ、47～48ページ)
- ③スチール缶リサイクル協会と散乱防止・美化キャンペーンを実施した。(前掲46～47ページ)

(2) 情報の発信・共有化

① 会員のイベント情報等をメールマガジンで配信(前掲49ページ)

月3回配信しているメールマガジン「3 R・廃棄物ニュース」に会員のイベント情報等を掲載した。

② 3 R活動推進フォーラム事務局通信の配信

事業の進捗状況や事務局の状況を会員に報告する事務局通信を年5回配信した。

③ ホームページの会員ページでの情報提供

- ・令和元年度廃棄物・3 R研究財団& 3 R活動推進フォーラム年次報告会資料をホームページ上に掲載した。
- ・行政資料等会員向け情報を掲載した。
- ・セミナー等参加者アンケート結果を掲載した。

(3) 年次報告会資料の会員無料化

令和元年10月4日(金)の公益財団法人廃棄物・3 R研究財団との共催による年次報告会の資料については、一般参加者は有料だが、会員は無料とした。

(4) 3 Rグッズ等の配布

① 3 R推進月間用ポスターデータの配布

平成30年度3 R促進ポスターコンクール入賞作品を使用した3 R推進月間用ポスター2種のデータを作成、10月の3 R推進月間を中心に希望者に無料で提供した。(前掲48ページ)

② 3 R促進ポスターコンクール作品募集ポスターデータの配布

3 R促進ポスターコンクールのPRツールとして、「令和元年度3 R促進ポスターコンクール作品募集ポスター」データを作成し、都道府県・政令指定都市のポスターコンクール担当者に自由に活用いただけるよう、データについてはホームページから無料でダウンロードできるようにした。



7. ガイドラインに沿ったRマーク表示の啓発・普及

3 R活動推進フォーラムでは、前身のごみ減量化推進国民会議が平成7年6月に定めた再生紙普及のためのRマーク（再生紙使用マーク）について、環境省が策定した環境表示ガイドラインの表示方法等と併せて広報に努めた。

①ホームページでの普及啓発

Rマークのロゴをダウンロードできるようにするとともに、使用にあたっての留意事項等を掲載。

②展示会等でのパネル展示による啓発普及（写真）

③問い合わせへの対応

Rマークについて、掲載方法や掲載物に関する電話などでの問い合わせ、教材への掲載方法についての問い合わせなどに対応した。

【Rマーク表示例】

平成20年1月に環境省から公表された「環境表示ガイドライン」では、消費者を混乱させないため、Rマークの近辺やウェブサイトなどに、下記表示例のように利用方法について説明文を加えて表示することが望ましいとされている。



この製品は、古紙パルプ配合率100%の再生紙を使用しています。このマークは、3 R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。

(再生紙使用)マーク

1.「Rマーク」とは
「Rマーク」は、平成7年6月、「3R活動推進フォーラム」の前身である「ごみ減量化推進国民会議」によって、再生紙の利用促進・普及啓発を促すためのシンボルマークとして定められました。

2.「Rマーク」の表示に用いては
「Rマーク」は、古紙パルプがどのくらい配合されているのかが一目で判るようにしたもので、申請や届出は不要で、誰でも自由に無料で使用できますが、表示に関しては、以下に十分注意してください。
○古紙パルプ配合率は製紙メーカーや印刷会社とご協議の上、正しい数字を表示する。
○再生紙を使用した印刷物などに貼り込んで表示する。
○表紙と中綴で古紙パルプ配合率の違う紙を使用している場合は、両方を表示すること。
○古紙パルプ配合率を示した数値・文言、説明とあわせて表示すること。
○マークの形は崩さないこと。ただし、文字の大きさ、色は自由です。
○コーティング加工した紙、他の素材と複合をした紙、段ボール等に対しては使用しない。

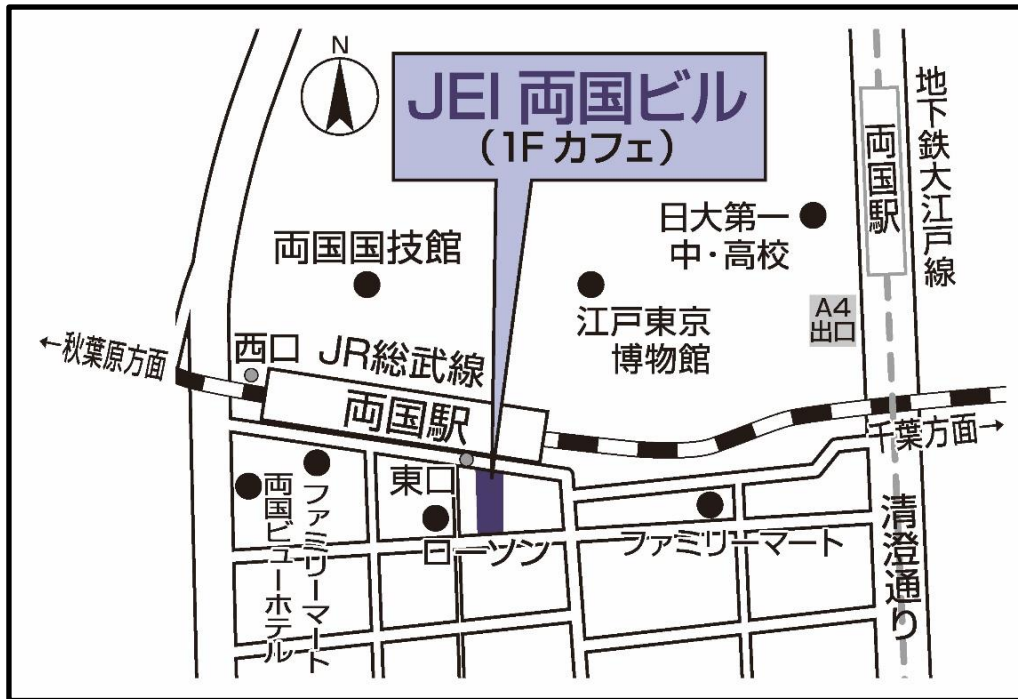
3.「Rマーク」の表示例
「Rマーク」は、「Rと古紙パルプ配合率を示す数値」と「古紙パルプ配合率100%再生紙を使用」を組み合わせて表示してください。
なお、平成20年1月に環境省から公表された「環境表示ガイドライン」では、消費者を混乱させないため、Rマークの近辺やウェブサイトなどに、下記表示例のように利用方法について説明文を加えて表示することが望ましいとされています。
この製品は、古紙パルプ配合率100%の再生紙を使用しています。このマークは、3R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。

4.画像データのダウンロード
古紙パルプ配合率に合った上記のような再生紙使用マークがあります。
3R活動推進フォーラムのサイト上で、利用可能な画像データが公開されています。

3R活動推進フォーラム
〒130-0025 東京都葛飾区亀有 2-20-15 11階 1105号室
TEL 03-5608-7111 FAX 03-5608-7164
URL <http://3r-forum.jp/>

Rマークの展示用パネル

3 R活動推進フォーラム 事務局案内図



JR 両国駅東口 徒歩 1 分

都営大江戸線 両国駅 A4 出口 徒歩 5 分

※ 3 R 活動推進フォーラム年次報告書は、2019年度（2019年4月から2020年3月）の事業報告を掲載したものです。

3 R活動推進フォーラム

～ごみゼロ・循環型社会めざして～

年次報告書

令和元年度版（2019 年度版）

発 行：3 R活動推進フォーラム

発行年月：令和 2 年 6 月

所 在 地：〒130-0026

東京都墨田区両国 3-25-5 JEI 両国ビル 8F

（公財）廃棄物・3 R研究財団 内

TEL 03-6908-7311 FAX 03-5638-7164

E-mail: info@3r-forum.jp

URL : <https://3r-forum.jp/>



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用

この製品は、表紙に古紙パルプ配合率 70%の再生紙、
本文に古紙パルプ配合率 60%の再生紙を使用していま
す。このマークは、3 R活動推進フォーラムが定めた表
示方法に則って自主的に表示しています。